

**令和3年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア高等教育共同体(仮称)形成促進 ～**

[基本情報:タイプ]

(A①):CAプラス

1. 大学名 <small>(○が代表申請大学)</small>	東京藝術大学			
2. 機関番号	<small>代表申請大学</small>	12606		
3. 主たる交流先の相手国	中国、韓国、タイ			
4. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな さわ かずき (氏名) 澤 和樹	(所属・職名) 東京藝術大学・学長		
5. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな さわ かずき (氏名) 澤 和樹			
6. 事業責任者	ふりがな おかもと みつこ (氏名) 岡本 美津子	(所属・職名) 映像研究科・教授		
7. 事業名	【和文】 日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築			
	【英文】 Asian Animation Education Network: Establishment and Management			
8. 取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	<small>学問分野</small>	<input checked="" type="radio"/> 人社会系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他		
	<small>実施対象 (学部・大学院)</small>	<input type="radio"/> 学部 <input checked="" type="radio"/> 大学院 <input type="radio"/> 学部及び大学院		
	大学院映像研究科			

9. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	中国	中国伝媒大学	Communication University of China	動画・数字(デジタル)芸術学院
2	韓国	韓国芸術総合学校	Korea National University of Arts	映像院
3	タイ	シラパコーン大学	Silpakorn University	装飾芸術学部
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

(大学名:東京藝術大学) (タイプ (A①):CAプラス)

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

http://www.geidai.ac.jp/information/info_public/education_announce
 (東京藝術大学公式Webサイト HOME > 広報・大学情報 > 情報公開 > 教育情報の公開)

12. 本事業経費 (単位: 千円) ※千円未満は切り捨て

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計	
事業規模 (総事業費)	17,550	19,320	19,218	19,218	19,216	94,522	
内訳	補助金申請額	15,800	14,220	12,798	11,518	10,366	64,702
	大学負担額	1,750	5,100	6,420	7,700	8,850	29,820

13. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
担当者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
	電話番号		緊急連絡先		
	e-mail(主)		e-mail(副)		

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容【1ページ以内】

① 交流プログラムの目的・概要等

【交流プログラムの目的及び概要等】

「日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築」

日本の誇るアニメーション文化は今や全世界的な広がりを見せ、東アジアやASEAN諸国でも日本アニメが非常に普及している。一方で中国では国産アニメが記録的ヒットを飛ばし、シンガポールでは世界大規模のアニメフェスティバルが開催されるなど、アジア諸国でのアニメ文化の開花が著しい。しかし一方で、これらを支える人材の教育やこれらの文化を後世に伝えていくための研究などを見てみると、アニメーション専門の教育課程を持つ大学は非常に少なく、さらには実技を行う大学院課程を保有する大学はASEAN諸国では皆無である。また研究環境も十分ではない。

東京藝術大学では2016年に大学の世界展開力（ASEAN）および日中韓キャンパスアジアに採択され、ASEAN 5 개국 8 大学と日中韓 3 개국で実践的プロジェクトをすでに実施してきた。2021年度からは学内に「アジア・アートのイニシアティブ」を設置し、全学的な戦略の下に、アジア地域の文化芸術の発展のための交流を進めている。

これまで、日本のアニメは韓国をはじめアジア各国のプロダクションの力を借りて成長してきた。また、アジアの人々もアニメ文化を許容し、各国でも独自のカルチャーを創り出しており、ある意味、日本アニメはアジア発のアニメと言っても過言ではない。今後は、このアニメーション文化・産業を、アジアの各国が共に創り、共に発展させていくために、この事業では、日中韓およびタイ、シンガポール他、ASEAN各国の大学がネットワークを作り、教育カリキュラムの構築や、様々な交流プログラムの実施、知見の共有などを通して、アニメーション教育・研究の共同プラットフォームを構築していくことを目指す。それにより、将来のアジアのアニメーション文化・産業を担う人材を育成し、新たな表現や技術を開発し、アニメーションを中心としたアジア文化・経済圏の更なる発展に貢献することを目指す。

【1】アジアアニメーション教育ネットワークの（AAEN）構築

本大学院映像研究科アニメーション専攻においては、韓国芸術総合学校（K'ARTS）および中国伝媒大学（CUC ※2012年度から参加）と共に、アニメーション作品の共同制作（Co-work）を2010年より毎年継続して実施しており、2021年には第12回目を開催した。特に2016年度からは大学の世界展開力強化事業（キャンパスアジア）に採択され、日中韓「Co-work」としてアニメーション国際共同制作教育における優れた国際授業の形態を確立した。「Co-work」は、全工程で3ヶ月程度にまたがるプログラムであり、3か国の学生が一堂に会し、企画から制作、完成作業、発表までを集中的に行うカリキュラムである。実制作工程はそれぞれ10日程度の「共同企画ステージ」と「共同制作ステージ」から構成され、全てのコミュニケーションを英語で行っている。また「Co-work」の締めくくりとして、合同成果発表会を開催し、教職員や専門家を交えた講習会を行っている。2020年度においては、世界的なコロナ禍の中、完全なオンライン方式によって「Co-work」を完遂し、ニューノーマルな国際共同制作の教育を世界に先駆けて実施した。一方、2016年に採択された大学の世界展開力事業（ASEAN）においては、タイ、ミャンマーでワークショップを行い、本学との国際交流がきっかけでミャンマー国立文化芸術大学（NUAC）において、アニメーションを専門とするコースを開設するまでに至った。これらの流れを背景に、本事業では日中韓が中心となり、ASEANの各国の大学・研究機関に参加を呼びかけ、活動の中心となる「アジアアニメーション教育ネットワーク（AAEN）」を構築することを提案したい。これまでキャンパスアジアにおいて、共同カリキュラム構築や交流で大きな成果を上げてきた日中韓の3大学、韓国芸術総合学校（K'ARTS）、中国伝媒大学（CUC）、東京藝術大学の3校がリーダーシップをとり、ASEAN各国の窓口として各国に広いネットワークを持つタイのシラパコーン大学を新たに「連携校」として迎える。更には、シンガポール、インドネシア、ラオス、マレーシアなどASEAN各国の大学も「協力校」として連携を呼びかけながら、連携校、協力校ともに、それぞれの大学の強みを生かし、必要な知識や環境を共有しながら、日中韓+ASEAN全体のアニメーション教育・研究プラットフォームを共に構築していくことを目指す。

【2】AAENカリキュラムの開発

日中韓3か国の大学院においてはCo-workの実施により、飛躍的な国際共同制作に関する教育カリキュラムの向上が見られたが、その一方でASEAN各国には、アニメーション専門課程を持つ大学はほとんどなく、大学院に至っては実技を伴うコースがゼロであるという現状がある。これを受けて、本事業においては各大学の持つこれまでの教育資産を生かし、その共有・機能の相互補完を行いながら事業展開のベースとなる「共創プラットフォーム」を整備し、連携校・協力校において大学院・学部の各レベルにおけるアニメーション教育の普及に務める。

具体的にはこれまでキャンパスアジアで行ってきた「大学院向け」に加えて、「学部向け（ビギナー向け）」として、日中韓3校が協力し、オンラインによる単位または履修証明を伴うレクチャー（90分×15回）や単発のレクチャー等を2023年度から新設し、順次拡大を目指す。大学院向けについては、これまでキャンパスアジア内で行ってきた大学院生によるアニメーション国際共同制作「Co-work」を継続して実施し、AAEN校の教員や優秀な学生をゲストとして参加させることも検討。更に実施大学の予算によりアニメーション分野およびXRやAIなどその拡張の分野までのテーマも含む、各種ワークショップも適宜実施し、連携校や協力校などからも参加できるようにする。

【3】知見の共有としてのシンポジウム

2021年より年に1回、Co-workの成果発表や各ワークショップ報告や研究成果発表などを兼ねたシンポジウムをAAEN参加大学間で開催し、カリキュラムを通じて得られた知見を共有する。それにより、参加校全体の啓蒙と教育のレベルアップを図る。加えて著名な監督や作家、産業界からのプロデューサーなどのゲストも迎え、文化・経済圏発展に向けたディスカッション等も行う。

【4】様々な交流プログラム

参加校間では短期・中期の様々な交流プログラムを実施し、教員や学生間の交流を促進する。ASEANの各国とは大学院レベルの交換留学が難しいため、教員や学部学生の短期研修などの交流プログラムも検討する。派遣・受け入れについては、実渡航を伴う派遣、受け入れとして、K'ARTS・CUCと行ってきた交換留学を引き続き継続し、2022年からk'ARTSとのダブルディグリーも開始する。また、ハイブリッド型の交流として、大学院レベルのカリキュラムである「Co-work」について、2022年度から5名の派遣、10名の受け入れを実施する。さらには、ワークショップ等を適宜行い、短期の交流なども積極的にやっていく。

【養成する人材像】

- ・国際的な視野を持ち、深い知識と高い技術を、世界の課題解決のための国際協働の場で活かせる人材
- ・映像分野におけるグローバル化を先導する人材
- ・アニメーション分野において国際共同制作や共同研究を牽引する人材

【本事業で計画している交流学生数】各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない）

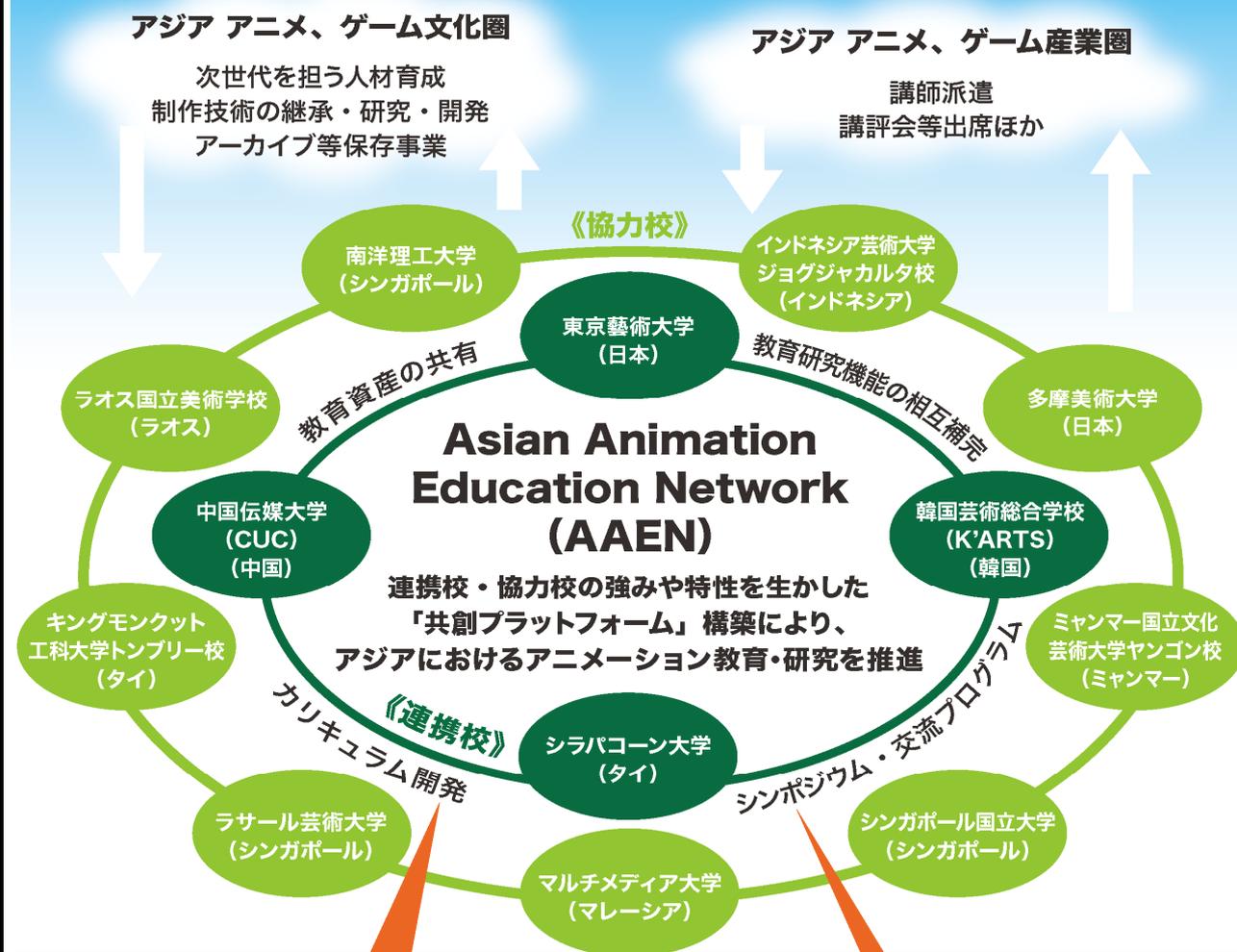
（単位：人）

2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
派遣	受入								
1	2	8	15	10	19	10	19	10	19

（大学名： 東京藝術大学 ）

（タイプ A①：CAプラス ）

日中韓 + ASEAN の文化・経済圏発展に向けた、 アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築



AAEN カリキュラムの開発

- 単位または履修証明を伴うプログラム
 - 【大学院向けカリキュラム】
アニメーション国際共同制作プログラム「Co-work」(年1回)
日中韓他の学生からなる混成チームで、3ヶ月にわたり企画から動画コンテ制作、作画、着色、音声作業までを行い短編アニメーションを完成させ、成果発表会を行う
 - 【学部向けカリキュラム】
オンラインレクチャー (90分 x 15回)、単発レクチャー等
例) 日中韓アニメーション史、アニメーション表現と作画等
- 様々なワークショップ
アニメーション分野だけでなく、ゲーム分野や ICT 分野への拡張も見据えた多様なテーマのワークショップを随時開催
例) XR (拡張現実) ワークショップ、人間とコンピューターの共存

知見の共有としてのシンポジウム

Co-work の成果発表やワークショップの報告を兼ねたオンラインシンポジウムや学会を年1回開催し、参加校全体の啓蒙と教育のレベルアップを促進

産業界、評論家、
他分野からも講師を招聘

様々な交流プログラム

参加校間で短期・中期の交流・研修プログラムを開催し、教員・学生間の交流を促進

③ 国内大学等の連携図 【1ページ以内】

■多摩美術大学グラフィックデザイン科のAAEN「協力校」としての参加

日本の大学で本学と同様にアニメーション専門の実践的な大学院課程を持つ大学は少ない。専門の大学院課程がある大学でも、本学の大学院映像研究科アニメーション専攻（定員1学年16名）と比べ、その規模は小さく数人程度である。

多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程（master degree course）デザイン専攻グラフィックデザイン領域では、アニメーションという専門の名称のつく課程はないものの、毎年数名が修士コースに進み、クオリティの高い作品を制作し修士を輩出している。この多摩美術大学に、アジアアニメーション教育ネットワーク（AAEN）「協力校」への参加を呼びかけ、大学院向けカリキュラムや、学部向けカリキュラムなどの学生の参加を募る。既に、同大学グラフィックデザイン科では参加の意思を表明しており、2022年度から正式に、学生が参加する予定である。

■ICAF(インターカレッジアニメーションフェスティバル)

参考： <http://www.icaf.info/>

本学は、上記多摩美術大学をはじめ、武蔵野美術大学など、日本国内でアニメーション教育を行っている28大学の連合体であるICAF(インターカレッジアニメーションフェスティバル)にも幹事校として参画し、ネットワークを形成している。このICAFにおいて、大学院向けCo-workや学部向けカリキュラムなどの成果発表を行うなど、ICAFネットワークの活用により大きなムーブメントを目指す。

加えて、本学が主導する下記「芸術系大学コンソーシアム」とも連動させることで、本申請に係る交流プログラムの取組・成果が広く共有されるよう図っていく。

■芸術系大学コンソーシアム

2016年には、本学が中心となって「全国芸術系大学コンソーシアム」（2021年7月現在、58の芸術系大学が加盟）を設立しており、国内の芸術系大学ネットワーク形成を大きく推進させた。現在は全国の芸術系大学が各地域の小中高の芸術教員向けに、芸術分野の教科教育に関する研修会を行っており、芸術教育の普及活動を行っている。

これらの研修会にて、本事業に直接参加した教員等が、異文化コミュニケーションから学生たちの創造性を引き出し、感性を豊かに発展させていくための指導のスキルや評価方法の工夫等について共有し、教育的効果の高い芸術教育を我が国の小学校～大学教育の現場において取り入れていけるよう貢献していく。

④ 交流プログラムの内容 【4ページ以内】

【実績・準備状況】

■ 1 大学の世界展開力事業（キャンパスアジア）の実績に基づく展開

東京藝術大学院映像研究科アニメーション専攻においては、韓国芸術総合学校大学院とのアニメーション作品の共同制作(Co-work)を2010年より毎年継続して実施しており、2012年以降は中国伝媒大学大学院を加え、2020年には第11回目を開催した。Co-workは、3ヶ月以上にわたる単位を伴うカリキュラムであり、日本・中国・韓国の3カ国の学生からなる混成チームを作り、英語によるコミュニケーションをとりながら短編アニメーションを完成させ、一般の観覧客も含めた上映会までを開催するものである。また、実技だけでなく幅広い知識を得られるようにCo-workの期間中に、その年のテーマに関連するいくつかのレクチャーが産業界からの講師や専門研究者等によって行われる。

2016年度よりCo-workは、大学の世界展開力強化タイプA-②（日中韓）に採択され、キャンパスアジア事業として2020年度までの5年間の事業を行った。この日中韓事業においては上記Co-workを基盤として様々なワークショップ等を開催し、上記Co-workには5年間の間に総計103名の学生が参加し、25本の短編アニメーション作品が制作された。その独自性と質の高さから、世界最大規模のデジタルメディア/デジタルコンテンツのカンファレンスである「シーグラフアジア」等でも発表され、国際的にも大きな注目を浴びてきた。本学映像研究科ではこの共同制作を正規科目「国際共同制作演習」（2単位）として扱い、毎年度開講している。また、中韓それぞれも各大学で単位化している。

2020年度のCo-workでは、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航を伴う交流が困難となったことを受け、完全オンラインでの交流プログラムを実践した。プログラムのうち、実働を伴う作業の期間を大幅に短縮し、一週間ずつの共同企画・制作ステージを連続に変更した。また、テーマの設定方法や制作手順などもコロナ禍以前のものと大幅に変更し、国によっては使用できないアプリケーションがある中、オンラインでの共同制作に最もふさわしい内容を組み立てるための工夫を凝らした。これらの困難を乗り越え、一度も対面で学生たちが顔を合わせ、同じ空間内で肩を並べて作業することなくアニメーション制作を成功させ、学生の能力や人間性を大きく成長させる取り組みともなった。

日中韓の交換留学についても、5年間で派遣10名/受入3名を実施し、教育効果として高い成果を得た。交換留学での学習モデルをもとにして、2021年8月に韓国芸術総合学校とダブルディグリー協定を締結する予定であり、翌年2022年から実施予定である。

これら日中韓の3校の連携は非常に強固なものであると同時に、それぞれの大学が独自にASEAN諸国の大学との交流実績を持っている。今後は、このキャンパスアジアの3校がリーダーとなって、Co-workで培った知見と人脈を、アジア地域全体のアニメーション文化の発展のために、ASEAN諸国へも広げていきたい。



キャンパスアジア事業における交流活動の様子（上段）と制作されたアニメーション作品（下段）

■ 2 大学の界展開力強化タイプA (ASEAN) の実績に基づく展開

本学は2016年度より大学の界展開力強化タイプA (ASEAN) に採択され、5年間の事業実施期間の中で、ASEAN5か国（タイ、ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナム）のカンボジア王立芸術大学、ラオス国立美術学校、ミャンマー国立文化芸術大学、バガン漆芸技術大学（ミャンマー）、ベトナム美術大学、ベトナム国家音楽院、ホーチミン市美術大学（ベトナム）、シラパコン大学（タイ）の8大学とともに、様々な実践的ワークショップに基づいた交流を行ってきた。ここでは、教員と学生によって構成されたユニットによる交流プログラムである「ユニットプログラム」、個人の研究・創作活動のために一定期間連携大学に滞在し活動に取り組む「個別研修プログラム」、および交換留学を実施し、合計派遣学生162名/受入学生80名に上った。また、複数の連携大学から同時に招聘する「合同招聘プログラム」やプログラム参加者のための事前学習を目的とした特別レクチャー等も外部講師を招き開催した。2020年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航を伴う交流が困難となったことを受け、オンライン上での交流プログラム実践のためのオンライン・プラットフォーム「TMOP (Tokyo University of the Arts ≠ Mekong Online Platform)」事業を開始 (<https://tmop.geidai.ac.jp/>) した。本学がメコン流域の芸術大学と交流しながら、芸術文化を育成するためのオンライン・プラットフォームとなることを目的として設立した（2020年度末までの延べ利用者数は346名）。

また、2021年1月には、本事業での本学の取り組みを総括すること目的としたオンラインイベント「Tokyo Geidai ≠ Asia 2021 (Tokyo Geidai Interactive Asia 2021)」を開催した。同イベント内の国際フォーラムでは、この事業に携わった本学教員や連携大学の教員及び麻生和子氏 (Asian Cultural Council 日本財団代表理事、東京藝術大学理事) を交え、これまでの事業の総括を行った。本イベントは、キャンパスアジア事業とASEAN事業と合同で行われ、オール藝大かつオールアジアでの取り組みに向けて発展していく契機ともなった（本学学生2名（修士課程1名および2020年3月修士課程修了生1名）・教員18名/連携6大学学生1名・教員12名参加。視聴者としての学生参加数を含めると、合計視聴数は280名）

アニメーション分野では、2012年より、本学教員が、ディレクター/プロデューサーとして産学共同ワークショップ「アニメーションポートキャンプ」の実施に参画している。この事業は、大学や専門学校等でアニメーションを学ぶ学生たちに、日本のトップレベルのアニメーター達が指導を行うワークショップである。2015年からは、ASEAN事業の連携校であるタイのシラパコン大学でも毎年行われており、受講生の中から多くのアニメーション産業等に進む学生や、国際アニメーションコンクール等に入賞するなど優秀な学生を輩出している。

年度 派遣／受入別の計 連携機関 交流形態	H28(2016)				H29(2017)				H30(2018)				R1(2019)				R2(2020)			
	派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
	ユ	短	ユ	短	ユ	短	ユ	短	ユ	短	ユ	短	ユ	短	ユ	短	ユ	短	ユ	短
カンボジア王立芸術大学	0	0	0	0	11	0	3	0	4	0	3	0	5	0	2	0	4	0	4	0
ラオス国立美術学校	3	0	0	0	2	1	4	0	8	2	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0
ミャンマー国立文化芸術大学	4	0	2	0	12	1	0	0	6	0	0	0	9	0	1	0	0	0	1	0
パガン漆芸技術大学	5	0	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ベトナム美術大学	0	0	0	0	2	1	0	0	5	0	3	0	2	1	3	0	1	0	0	0
ベトナム国家音楽学院	0	0	2	0	0	1	2	0	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
ホーチミン市美術大学	0	0	2	0	6	0	7	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シラパコーン大学	8	2	14	0	13	1	3	0	12	2	11	1	8	2	3	0	1	0	0	0
交流形態別の計	20	2	20	0	51	5	21	0	45	5	20	1	24	3	11	0	7	0	7	0
派遣／受入別の計	22		20		56		21		50		21		27		11		7		7	

世界展開力強化事業における学生交流数実績（年度・連携機関・交流形態種別）

※交流形態の種別：「ユ」ユニット派遣、「短」短期研修または交換留学

※R1年度（2019年度）およびR2年度（2020年度）はオンライン交流実績含む

具体的な交流プログラムを取り上げると、2017年度からミャンマー国立文化芸術大学と、シラパコーン大学とのそれぞれの交流プログラムに継続的に取り組んでいる。

特にタイでは、2017年度から2019年度にかけて、アニメーションの作画を教えるワークショップ事業「アニメーションポートキャンプ」に取り組んでおり、2015年から継続的に本学の教員と学生を含む日本のアニメーターをタイに派遣し、バンコクにあるシラパコーン大学を会場として数日間に及ぶトレーニングワークショップを開催した。会場でもあるシラパコーン大学の学生や教員をはじめ、タイ国内から若手アニメーターが数多く参加し、アニメーションに必要な基礎的な技術を学ぶ機会として取り組まれてきた。

またミャンマー国立文化芸術大学（NUAC）シネマ専攻とは、ストップモーションアニメーションを通じた交流プログラムに取り組んできた。2017年度には、本学の教員・学生がNUACを訪れ、2日間にわたるストップモーションのワークショップを開催。2018年度には、NUACにて本学のイラン・グエン特任准教授が日本のアニメーション史に関する特別集中講義を開催した。

また同じく2018年度には、本学で開催されたアニメーション専攻の国際合同講評会にNUACの教員2名を招聘。続く2019年度は、ヤンゴンで開催されたワットン映画祭に、NUACシネマ専攻との共同プログラムとして参加した。ワットン映画祭はミャンマーのインディペンデント映画シーンに根差した国内最大規模の国際映画祭で、ショートフィルムのコンペティションのほか、ミャンマーのインディペンデント映画作品や、アジア各国からの招聘作品が上映されている。本学の学生とNUACがともに取り組んだ共同プログラムでは、双方の学生が制作した作品をそれぞれ選定したうえで上映し、互いの作品に関するプレゼンテーションと、ディスカッションを行った。



NUACでのワークショップの様子。会場はNUAC内にある撮影スタジオ。グループワークでの作品制作が行われた。

■ 3. 全学的戦略に基づくアジアアートイニシアティブの設置

本学は設立以来、アジア各国との芸術文化の交流を掲げ、様々な専門分野でその教育と研究に携わってきた。上記2つの世界展開力事業は期間を終了したが、その交流を継続的発展的に行い、アジアの文化芸術についての教育と研究をさらに推進するために、2021年に、その推進組織「アジアアートイニシアティブ」を設置し、全学的な戦略の下に取り組んでいる。

この「アジアアートイニシアティブ」のアニメーション分野の活動として「アジアアニメーション教育ネットワーク（AAEN）」を位置付け、一つの専門分野の枠にとどまらない情報共有や教育・研究活動を行なっていく予定である。

【計画内容】

(1) アジアアニメーション教育ネットワークの (AAEN) 構築

日中韓が中心となりASEANの各国の大学、研究機関に参加を呼びかけ、活動の中心となる「アジアアニメーション教育ネットワーク (AAEN)」を構築する。これまでキャンパスアジアにおいて、共同カリキュラム構築や交流で大きな成果を上げてきた日中韓の3大学、韓国芸術総合学校 (K'ARTS)、中国伝媒大学 (CUC)、東京藝大の3校がリーダーシップをとり、ASEAN各国大学と幅広いネットワークを持つタイのシラパコーン大学を新たに「連携校」に位置付け、シンガポール、インドネシア、ラオス、マレーシアなどASEAN各国の大学も「協力校」として連携を呼びかけながら、日中韓+ASEAN全体のアニメーション教育・研究プラットフォームを共に構築していくことを目指す。
タイのシラパコーン大学とは連携校参加の合意が取れており、その他のASEAN各国の大学とは「協力校」として参加してもらうよう、今後交渉を行なっていく予定である。

アジア各国における アニメーション専門の学部、大学院課程の保有状況

	大学名	国名	学部	大学院	
本学	東京藝術大学	日本	無	有	
連携校	中国伝媒大学 (CUC)	中国	有	有	
	韓国芸術総合学校 (K'ARTS)	韓国	有	有	
	シラパコーン大学	タイ	無	無	
協力校 (予定)	南洋理工大 (ITN)	シンガポール	有	有*	*研究分野のみ
	インドネシア芸術大学ジョクジャカルタ校 (ISI)	インドネシア	有	無	
	ラオス芸術大学 (NIF)	ラオス	有	無	
	国立文化芸術大学ヤンゴン校 (NUAC)**	ミャンマー	有	無	**現在事実上閉鎖中
	ラサール芸術大学 (シンガポール)	シンガポール	有	無	
	マルメディア大学 (マレーシア)	マレーシア	有	無	
	キングモンクット工科大学トンブリー校 (タイ)	タイ	有	無	
	シンガポール国立大学 (NUS)	シンガポール	無	無	
	多摩美術大学	日本	無	無	

(2) AAENカリキュラムの開発

AAENでは、参加大学の学生が受講できる「大学院向け」と「学部向け」の2つのカリキュラムを構築する。ASEAN各国には、アニメーション専門課程を持つ大学はほとんどなく、大学院に至っては実技を伴うコースはゼロである。これを受けて、カリキュラムは、これまでキャンパスアジアで行ってきた「大学院向け」に加えて、「学部向け (ビギナー向け)」を新設する。

<学部向けカリキュラム>:

日中韓3校が協力し、オンラインによる単位または履修証明を伴うレクチャー(90分×15回)を2023年度から新設し、順次拡大を目指す。内容はアニメーション分野においては初心者である連携校および協力校の学部生を対象とし、大学院にアニメーションコースをもたない学生にも裾野を広げていく。講義ビデオは日中韓の3校によって制作され、基本的に英語とする。また、トピックによっては、シリーズ化せずに単発の講義や、隣接するゲームなどの分野の内容も含まれる。

・レクチャー例: 「日中韓アニメーション史」「アニメーション表現と作画」「トークシリーズ・アニメーションマスタークラス」「ゲーム制作概論」など

<大学院向けカリキュラム>: 学生アニメーション国際共同制作 (Co-work)

また大学院向けについては、これまでキャンパスアジア内で行ってきた大学院生によるアニメーション国際共同制作「Co-work」を継続して実施する。Co-workにはAAEN校の教員や優秀な学生をゲストとして参加させることも検討する。

Co-workは3ヶ月以上にわたる単位を伴うカリキュラムであり、日本・中国・韓国の3ヶ国の学生からなる混成チームを作り、グループワークにより英語によりコミュニケーションをとりながら短編アニメーションを完成させ、一般の観客も含めた上映会までを開催するものである。

期間中は企画から動画コンテ制作までの「企画ステージ」と、作画や着色、音声作業などを行う「プロダクションステージ」に分けられる。また、幅広い知識を習得させることをねらい、期間中にはテーマと関連したレクチャーなども産業界や専門研究者等により複数行われる。2016年から2019年までは、それぞれのステージで学生が、いずれかの国に集合し対面式で行っていたが、2020年度からコロナの影響で全ての工程がオンラインとなった。

今後は、コロナの状況にもよるが、可能ならば「プロダクションステージ」のみ対面を実施し、後の工程はオンラインで実施する、ハイブリッド方式で実施したい。なお、このCo-workは現在実施のCUC, K'ARTS, 東京藝大の3校とも各学校で単位化している。連携校などからの参加学生については、履修証明を発行することを検討する。また完成作品の評価のために、作品についての客観的コメントを寄せる「Co-work講評会」を実施し、教育関係者他、アニメ産業界や評論家などのゲストを迎え実施する。

ASEAN各国の大学でアニメーション専門課程の実制作を伴う修士コースを持つ大学は無いが、優秀な学部学生をゲストとして招聘したり、ASEANの大学の教員の見学を行うなど、学部カリキュラムとの連動に努める。

<多様なワークショップ>

テーマや対象など、多様なワークショップも随時開催し、AAENの学生が参加できるようにする。ワークショップ開催費用は開催大学負担とし、オンラインによる開催または対面式の開催とする。実渡航が伴う場合は、参加する海外の大学からの学生の交通費、宿泊費は学生の所属する各大学が負担する。

なお、ワークショップは、アニメーション分野だけでなく、ゲームやXR、AIなど、ゲーム分野やICT分野などにも拡張し、次世代のアニメーションの拡張を見据えたものとする。

ワークショップの例: XR (拡張現実) ワorkshop/人間とコンピューターの共存 (CUC)

(3) 知見の共有としてのシンポジウム

2021年より年に1回、Co-workの成果発表や各ワークショップ報告や研究成果発表などを兼ねたシンポジウムをAAEN参加大学間で開催し、カリキュラムを通じて得られた知見を共有する。それにより、参加校全体の啓蒙と教育のレベルアップを図る。これまでも産業界との連携として、日本のアニメ産業界プロデューサーを迎えた講演会等を行ってきたが、今後も著名なアーティスト、産業界からのプロデューサーなどのゲストも迎え、文化・経済圏発展に向けたディスカッション等も行う。

東京藝大では、2020年1月に「Tokyo Geidai & Asia 2021 (東京藝術大学インタラクティブアジア2021)」のプログラムとして、日中韓の3校の教授+外部専門家ゲストによって、オンラインシンポジウム『Co-work融合と競争 一日中韓学生アニメーション共同制作』をオンラインで実施した。AAENの各大学がアニメーション教育・研究における知識や情報を共有できる場として、このシンポジウムを今後も実施していく。

(4) 様々な交流プログラム

参加校間では短期、中期の様々な交流プログラムを実施し、教員や学生間の交流を促進する。ASEANの各国とは大学院レベルの交換留学が難しいため、教員や学部学生の短期研修などの交流プログラムも検討する。

アジアアニメーション教育ネットワーク (AAEN) 計画内容

AAEN カリキュラムの開発	<ul style="list-style-type: none">● 単位または履修証明を伴うプログラム 【大学院向けカリキュラム】 アニメーション国際共同制作プログラム「Co-work」(年1回) 日中韓他の学生からなる混成チームで、3ヶ月にわたり企画から動画コンテ制作、作画、着彩、音声作業までを行い短編アニメーションを完成させ、成果発表会を行う 【学部向けカリキュラム】 単位を伴うオンラインレクチャー (90分×15回)、トピックによっては単発や複数本のレクチャーも 例: 「日中韓アニメーション史」、「アニメーション表現と作画」、「トークシリーズ・アニメーションマスタークラス」、「ゲーム制作概論」等● 多様なワークショップ アニメーション分野だけでなく、ゲーム分野や ICT 分野への拡張も見据えた多様なテーマのワークショップを随時開催 例) XR (拡張現実) ワークショップ、人間とコンピューターの共存
知見の共有としての シンポジウム	Co-work の成果発表やワークショップの報告を兼ねたオンラインシンポジウムや学会を年1回開催し、参加校全体の啓蒙と教育のレベルアップを促進
様々な交流プログラム	参加校間で短期・中期の交流・研修プログラムを開催し、教員・学生間の交流を促進

(i) 実渡航による交流

K'ARTSとCUCと東京藝大は2017年から大学院修士課程の交換留学を実施し、これまでに派遣10名と受け入れ3名を行ってきた。2020年度からはコロナ禍で中断しているが、この交換留学による交流を状況を見ながら再開していきたい。また、**K'ARTSとのダブルディグリープログラムも2022年度から開始される予定である。**

なお、タイのシラパコーン大学と本学美術研究科は、博士後期課程のダブルディグリープログラム協定を締結(2020年12月)し、質保証にかかる取り組みを積極的に進めており、学内でこれらの情報共有に努めながら推進していく。

(ii) オンライン交流

・日中韓3校が協力して学部向けカリキュラムを開発し、2023年度から実施する。講義(90分×15本)は全てオンラインによるオンデマンド方式とし、受講生は1セメスター(3ヶ月程度)で受講するものとする。日中韓の各大学で単位化し、それ以外の大学からの参加者に関しては、履修証明発行を伴うことを検討中。また、単位化は難しいが、トピックにより、単発や複数本のオンラインレクチャーなども開催する。講義は基本的には英語で行われる。
レクチャー例: 「日中韓アニメーション史」「アニメーション表現と作画」「トークシリーズ・アニメーションマスタークラス」「ゲーム制作概論」など

・テーマや対象など多様なワークショップを実施する。実渡航を伴わないワークショップについては、オンラインでの各国の参加を呼びかける。ワークショップの例: XR(拡張現実)ワークショップ/ゲームデザインワークショップ/人間とコンピューターの共生(CUC)

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

大学院向け学生アニメーション国際共同制作(C-work)は、企画から動画コンテまでをグループワークで行う「企画ステージ」と、作画や仕上げ作業を行う「プロダクションステージ」に分かれるが、このうち、「プロダクションステージ」については実渡航を伴うカリキュラムとする。その他のプロセスは、基本的にはオンラインで実施する。

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4ページ以内】

【実績・準備状況】

■1 大学院プログラム「アニメーション国際共同制作 (Co-work)」における質の保証

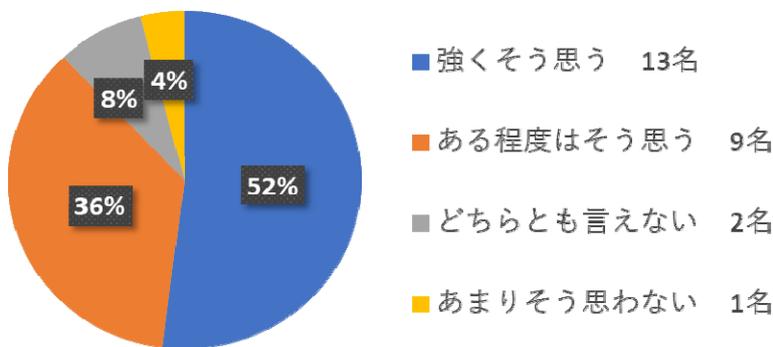
2010年にスタートし、2016年に大学の世界展開力事業(キャンパスアジア)に採択され、現在も日中韓の3カ国の大学院で行っているアニメーション国際共同制作 (Co-work)に関しては、これまで東京藝大の授業カリキュラム上は「**国際共同制作演習 (アニメーション)**」として単位化されシラバスを作成し、選択科目2単位として単位付与を行っている。参加校である韓国芸術総合学校(K'ARTS)と中国伝媒大学(CUC)についても、それぞれの大学のカリキュラムとして単位化を行っている。

また、東京藝大では、Co-workプログラム実施前に先立ち、**語学能力向上のための事前授業や英語プレゼンテーションのための演習**を行っており、こちらも「**国際コミュニケーション演習**」の一部として単位化し、選択科目2単位として単位付与を行っている。

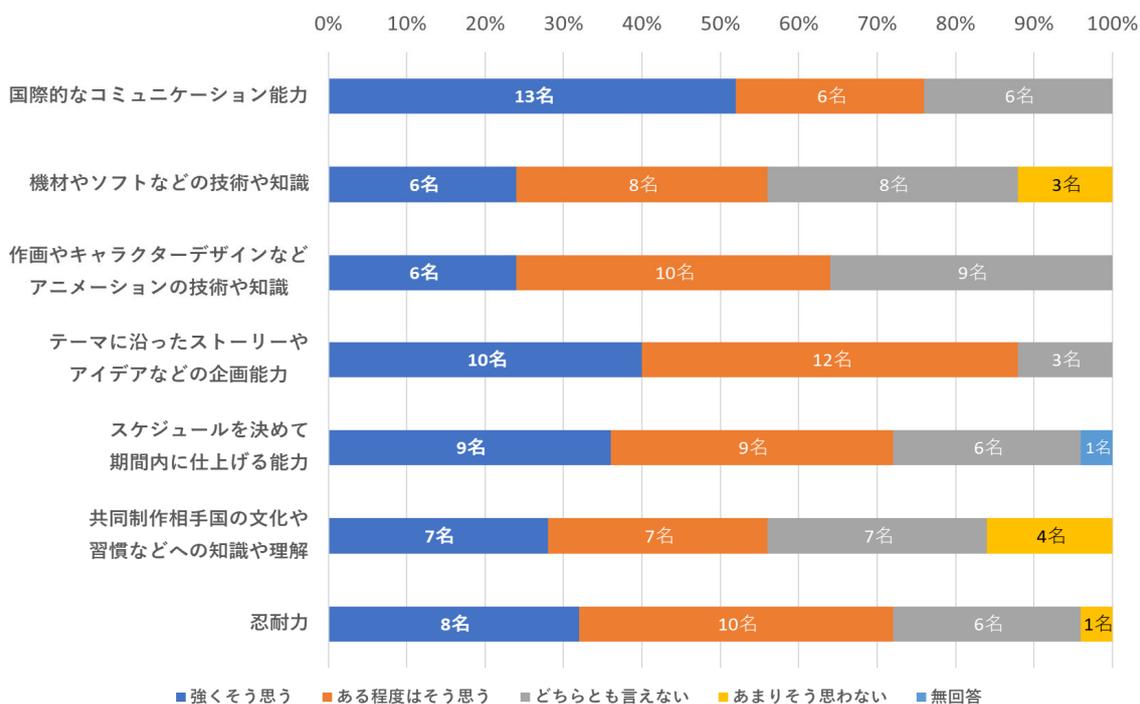
Co-work終了後には学生に対するアンケートを実施し、毎年改善に役立てている。この結果などを踏まえて、毎年、Co-workの開始前、開始中、開始後に、3カ国の教員・スタッフによりCoworkカリキュラムや今後のあり方などを話し合う「**Coworkカリキュラム・ディベロップメント会議 (@オンライン)**」を開催しており、**学生へのアンケート結果**などに基づくカリキュラムの改善を行っている。

Co-workの内容に関する客観的評価として、最終成果発表イベントにアニメーションの専門家や産業界からのゲストを招き、評価をいただく「**Co-work講評会**」を実施している。芸術の分野は作品の点数化が難しく、従来、専門性を持つ評論家や作家、研究者等が作品についてのコメントを重ねていく「**講評会**」を持って作品の評価としている。Co-workについても、完成作品について、できるだけ専門的知識に基づいた客観的評価を得られるように、講評会のゲストについて各大学で検討し、3カ国合わせて毎年15名程度のゲストにコメントを頂いている。またそれぞれの大学の他分野の専門の教員などが出席することにより、視野の広い講評も可能となっている。

Co-workに参加してあなたの能力は以前よりも
伸びたと思いますか？



どのような能力が伸びたと思いますか？



(参考) 2021年度の授業後アンケート結果

キャンパスアジア事業については、日本の大学改革支援・学位授与機構、中国教育部高等教育教學評価センター、韓国大学教育協議会が共同で実施するモニタリングを受けており、2019年に韓国で実施された中間レポートに対するヒアリング調査に、本学からも担当教員が出席し、質の更なる改善に向けて様々な意見をいただいた。

また、K' ARTSと東京藝大は、長年「ダブルディグリープログラム」について、詳細な検討を重ねてきたが、2021年8月によろやくMOU調印の予定となり、2022年度から実施予定である。

■2 大学の世界展開力事業(ASEAN)における質の保証

2016年度に採択された大学の世界展開力事業(ASEAN)においては連携大学間で、「ASEAN+3学生交流のためのガイドライン」に基づく成績評価・単位付与・単位互換等の制度を踏まえた評価のあり方について、連携大学間で協議を行った。その結果、ASEAN連携大学と本学との共同授業及び協働社会実践については、双方の教員がすべて参加し、双方の観点・視点からの交流プロジェクトを企画・実施し、また双方から参加学生の評価がなされる体制を構築した。

加えて、連携先6大学(2017年:カンボジア王立芸術大学・ベトナム美術大学・ベトナム国家音楽学院・シラパコーン大学、2018年:ミャンマー国立文化芸術大学、2019年ホーチミン市美術大学)と双方の学長名によるMOU(覚書)を締結し、交流の促進を図った。

更に、タイのシラパコーン大学と本学美術研究科は、博士後期課程のダブルディグリープログラム協定を締結(2020年12月)し、質保証にかかる取り組みを積極的に進めた。

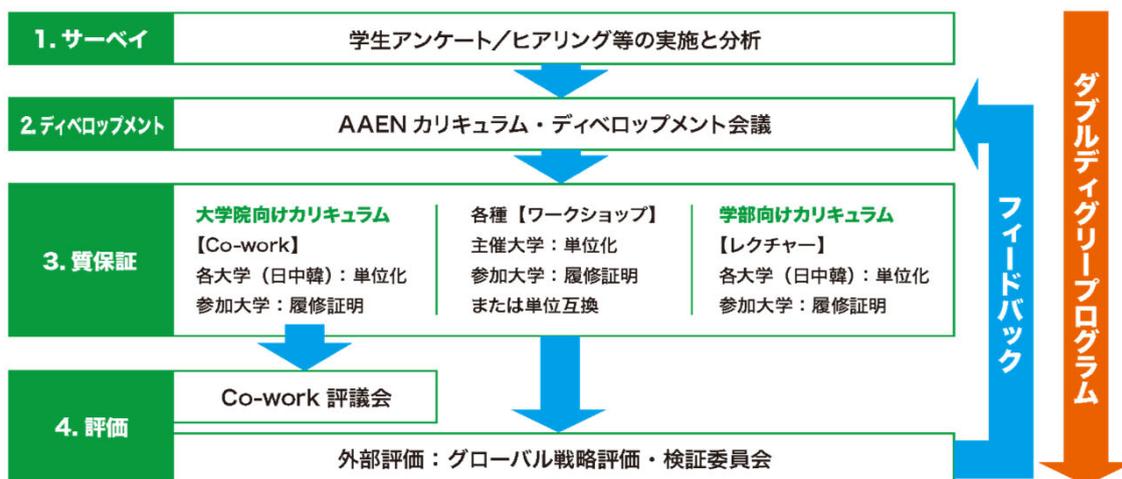
■3 外部有識者からの評価

また、両事業ともに取り組み状況については、毎年、本学教育担当理事や各学部・研究科長からなる「グローバル戦略推進委員会」において毎年度確認・成果を分析し、さらに元文部科学大臣や企業経営者、他大学教授などの幅広い視野や知見を持つ外部委員会からなる「グローバル戦略評価・検証委員会」において外部評価を実施しながらPDCAサイクルにより事業を実施している。

【計画内容】

アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)では、大学院向けカリキュラムである「Co-work」、学部向けカリキュラムである「レクチャー」、各種「ワークショップ」の3種類からなるカリキュラムを計画している。このカリキュラムの質保証と改善、開発のために「サーベイ」を含めた次の4つの段階からなる下記「AAEN 4ステップシステム」を構築する。

アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)における質保証の“4ステップシステム”



(1) サーベイ

全てのプログラムにおいて、参加学生にアンケートを行い、分析を行う。これまでも学生アニメーション国際共同制作(Co-work)では終了後にアンケートを行い、調査分析を行ってきた。そこでは「Co-workに参加して良かったと思うか」という全体評価の他に、「Co-workに参加してあなたの能力はどんな点がアップしたと思うか」などの具体的な質問項目、そして自由記述などからなっており、効果測定と次年度のプログラム開発に大きく役立っている。AAENのサーベイもこの知見を生かし、全てのプログラムで参加者へのサーベイを行う。

また、大学の世界展開力事業(ASEAN)では、本学が実施したワークショップの後に相手校の担当教員から、ワークショップの内容やレベル、学生の反応の様子、運営の仕方、次年度へのリクエストなどについて、ヒアリングを行っている。AAENでは学生の視点だけでなくこのように連携校や協力校の教員からのヒアリングを実施し、プログラムの改善に努めていきたい。

(2) カリキュラム・ディベロップメント

毎年、Co-workの開始前、開始中、開始後に、3カ国の教員・スタッフによりCo-workカリキュラムや今後のあり方などを話し合う「Co-workカリキュラム・ディベロップメント会議(@オンライン)」を開催しており、学生へのアンケート結果などに基づくカリキュラムの改善を行っている。この経験を踏まえて、AAENでは「Co-workカリキュラム・ディベロップメント会議」を発展させ、連携校の教員による「AAENカリキュラム・ディベロップメント会議」を設置する。この会議は、年に3回以上、必要に応じてオンラインで開催される。そこでは上記サーベイの結果や各大学の状況などを踏まえながら、具体的なカリキュラムの内容や運営などについて、連携大学の教員間で意見を交わし、プログラムの改善と開発につなげていく。またお互いの大学や国の情報などの情報交換と共有などに大きく役立つものとなる。

(3) 質保証

質保証として、全てのカリキュラムにおいて、単位化、または履修証明発行を目指す。

まず、大学院向けプログラムとしてのCo-workについては、現在、これまで東京藝大の授業カリキュラム上は「国際共同制作演習(アニメーション)」として単位化されシラバスを作成し、選択科目2単位として単位付与を行っている。参加校である韓国芸術総合学校(K'ARTS)と中国伝媒大学(CUC)についても、それぞれの大学のカリキュラムとして単位化を行っている。この単位付与はそのまま継続とする。また連携大学等から優秀な学生がゲストとして参加する場合は、履修証明を発行する。

次に、主に学部向けプログラムである「AAENレクチャー」については、日中韓それぞれの大学において単位化を行う。単位化のプロセスは日中韓各大学によって異なるが、各大学の質保証に委ねるものとする。東京藝大では当該部署の教員によって議論を重ね、当該部局の教授会に諮り単位化されるプロセスであるが、AAENレクチャーについてもこのプロセスに則り単位化を行うことで質の保証を担保していく。なお、日中韓以外の連携校や協力校などからのレクチャー参加者について、学部生については、履修証明の付与を行う。

なお、各種テーマや対象に向けて行われるワークショップについては、主催大学の予算と責任で行われるため、内容にもよるが主催大学での単位化を図る。連携校などからの参加者には、単位互換や履修証明などを付与することを検討する。

(4) 評価

AAENでは外部評価者による客観的な評価を行う。

大学院向けプログラムCo-workのものは、作品内容に関する専門的知識に基づいた客観的な評価として、最終成果発表イベントにアニメーションの専門家や産業界からのゲストを招き、評価をいただく「Co-work講評会」を実施している。芸術の分野は作品の点数化が難しいために、従来、専門性を持つ評論家や作家、研究者等が作品についてのコメントを重ねていく「講評会」を持って作品の評価としており、3カ国合わせて毎年15名程度のゲストにコメントを頂いている。またそれぞれの大学の他分野の専門的教員などが出席することにより、視野の広い講評も可能となっている。

AAENにおけるCo-workについても、この評価システムを継続し、完成作品について、できるだけ専門的知識に基づいた客観的な評価を得られるように、講評会のゲストについて各大学で検討し、「Co-work講評会」を行う。

また、Co-workだけでなく学部向けレクチャー、各種ワークショップなどAAENカリキュラム全体に対する評価については、幅広い視点や他の専門分野からの客観的な意見をいただくために、これまでの世界展開力事業の評価方法を踏襲する。具体的には、毎年、本学教育担当理事や各学部・研究科長からなる「グローバル戦略推進委員会」において毎年度確認・成果を分析し、さらに元文部科学大臣や企業経営者、他大学教授などの幅広い視野や知見を持つ外部委員会からなる「グローバル戦略評価・検証委員会」において外部評価を実施しながらPDCAサイクルにより事業を実施する。

(5) その他ダブルディグリープログラムの推進による質保証

東京藝大大学院映像研究科は、韓国芸術総合学校(K'ARTS)と長年ダブルディグリープログラムについて、詳細な検討を重ねてきたが、2021年8月によりやくMOU調印の予定となり、2022年度から実施予定である。このダブルディグリープログラムを積極的に推進することで、連携の取り組み全体の質保証に努めていく。なお、タイのシラパコーン大学と本学大学院美術研究科は、博士後期課程のダブルディグリープログラム協定を締結(2020年12月)し、質保証にかかる取り組みを進めており、学内でもその情報共有などを行い、質の向上を目指す。

(i) 実渡航による交流

大学間交流協定やダブルディグリープログラムなどによる実渡航を伴った交流について、コロナの状況を見ながら積極的に推進していく。

K'ARTSとCUCと東京藝大は2015年から大学院修士課程の交換留学を実施し、これまでに派遣10名、受け入れ3名を行ってきた。2020年度からはコロナ禍で中断しているが、この交換留学による交流を状況を見ながら再開していきたい。また、K'ARTSとのダブルディグリープログラムも2022年度から開始される予定である。

(ii) オンライン交流

AAEN学部向けプログラムであるオンラインによる「AAENレクチャー」については、各大学において単位化を行う。単位化のプロセスは日中韓各大学によって異なるが、各大学の質保証に委ねるものとする。東京藝大では当該部署の教員によって議論を重ね、当該部局の教授会に諮り単位化されるプロセスであるが、AAENレクチャーについてもこのプロセスに則り単位化を行うことで質の保証を担保していく。なお、日中韓以外の連携校などのレクチャー参加者について、学部生については、履修証明の付与を考えている。

また、実渡航を伴わない「AAENワークショップ」については、オンラインでの各国の参加を呼びかける。ワークショップは主催大学の予算と責任で行われるため、内容にもよるが主催大学での単位化を図る。連携校などからの参加者には、内容にもよるが、単位互換や履修証明などを付与することを検討する。ワークショップの主催大学ワークショップの例：XR(拡張現実)ワークショップ/ゲームデザインワークショップ/人間とコンピューターの共生(CUC)

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

大学院向け学生アニメーション国際共同制作(C-owork)は、企画から動画コンテまでをグループワークで行う「企画ステージ」と、作画や仕上げ作業を行う「プロダクションステージ」に分かれる。このうち、「プロダクションステージ」については実渡航を伴うカリキュラムとする。その他のプロセスは、基本的にはオンラインで実施し、全体としてハイブリッドなカリキュラムとする。

現在、これまで東京藝大の授業カリキュラム上は「国際共同制作演習(アニメーション)」として単位化されシラバスを作成し、選択科目2単位として単位付与を行っている。参加校である韓国芸術総合学校(K'ARTS)と中国伝媒大学(CUC)についても、それぞれの大学のカリキュラムとして単位化を行っている。この単位付与はそのまま継続とする。また連携大学等から優秀な学生がゲストとして参加する場合は、履修証明を発行する。

(大学名： 東京藝術大学)

(タイプA①：CAプラス)

達成目標 【①～④合わせて7ページ以内】

① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

(i) 事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)

「日中韓 + ASEAN の文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築」

日本の誇るアニメーション文化は今や全世界的な広がりを見せ、東アジアやASEAN諸国でも日本アニメが非常に普及している。一方で中国では国産アニメが記録的ヒットを飛ばし、シンガポールでは世界大規模のアニメフェスティバルが開催されるなど、アジア諸国でのアニメ文化の開花が著しい。しかし一方で、これらを支える人材の教育やこれらの文化を後世に伝えていくための研究などを見てみると、アニメーション専門の教育課程を持つ大学は非常に少なく、さらには実技を行う大学院課程を保有する大学はASEAN諸国では皆無である。また研究環境も十分ではない。

東京藝術大学では平成28年に大学の世界展開力(ASEAN)および日中韓キャンパスアジアに採択され、ASEAN5カ国8大学と日中韓3カ国で実践的プロジェクトを実施してきた。2021年度からは学内に「アジア・アートイニシアティブ」を設置し、全学的な戦略の下に、アジア地域の文化芸術の発展のための交流を進めている。

これまで、日本のアニメは韓国をはじめアジア各国のプロダクションの力を借りて成長してきた。ある意味、日本アニメはアジア発のアニメと言っても過言ではない。今後は、このアニメーション文化・産業を、アジアの各国が共に創り、共に発展させていくために、日中韓およびタイ、シンガポール他、ASEAN各国の大学がネットワークを作り、教育カリキュラムの構築や、様々な交流プログラムの実施、知見の共有などを通して、アニメーション教育・研究のインフラを構築していくことを目指す。それにより、将来のアジアのアニメーション文化・産業を担う人材を育成し、アニメーションを中心としたアジア文化・経済圏の更なる発展に貢献することをめざす。

2021年度：アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)の構築と学生アニメーション国際共同制作(Co-work)成果発表会を兼ねたキックオフシンポジウムを実施する。また学部向けカリキュラムのオンラインレクチャーコンテンツを制作する。なお、2021年度については日中韓の3大学間で、7～8月にかけてオンラインによりCo-work2021を行ったため、本申請に係る大学院向けカリキュラムについては実施しない。

2022年度：大学院カリキュラムとしてのCo-work2022を実施する。また学部向けオンラインレクチャーの制作を3カ国で継続し、その一部を試行的に実施する。年度後半には第2回AAENシンポジウムを開催する。また、連携校から呼びかけてAAEN協力校の拡大に努める。協力校のうち、多摩美術大学の参加予定。ワークショップなども随時開催する。

2023年度：大学院カリキュラムとしてのCo-work2023の実施。学部向けオンラインレクチャーの運用開始。第3回AAENシンポジウムを開催。協力校の新規参加呼びかけを実施。ワークショップなども随時開催する。

2024年度：大学院カリキュラムとしてのCo-work2024の実施。学部向けオンラインレクチャーの運用開始。第4回AAENシンポジウムを開催。協力校の新規参加呼びかけを実施。ワークショップなども随時開催する。

2025年度：大学院カリキュラムとしてのCo-work2025の実施。学部向けオンラインレクチャーの運用開始。5年間の総決算となる第5回AAENシンポジウムを開催。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)

2021年度：アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)の構築と学生アニメーション国際共同制作(Co-work)成果発表会を兼ねたキックオフシンポジウムを実施する。また学部向けカリキュラムのオンラインレクチャーコンテンツを制作する。なお、2021年度については日中韓の3大学間で、7～8月にかけてオンラインによりCo-work2021を行ったため、本申請に係る大学院向けカリキュラムについては実施しない。

2022年度：大学院カリキュラムとしてのCo-work2022を実施する。また学部向けオンラインレクチャーの制作を3カ国で継続し、その一部を試行的に実施する。年度後半には第2回AAENシンポジウムを開催する。また、連携校から呼びかけてAAEN協力校の拡大に努める。協力校のうち、多摩美術大学の参加予定。ワークショップなども随時開催する。

② 養成しようとするグローバル人材像について

(i) 事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)

事業においては、以下に挙げる人材の養成を目指す。

- ・ 国際的な視野を持ち、深い知識と高い技術を、世界の課題解決のための国際協働の場で活かせる人材
- ・ 映像分野におけるグローバル化を先導する人材
- ・ アニメーション分野において国際共同制作や共同研究を牽引する人材

この為、本事業における交流プログラムを通じて、参加学生は以下の知識・技能を修得する。

- ① アニメーションの企画・制作・上映・配信に係る実践的なプロセス
- ② アニメーションの国際共同制作/国際共同研究の現状と将来展望
- ③ アニメーションの国際共同制作に必要なハードウェア/ソフトウェアの操作・活用
- ④ 各国におけるアニメーション文化や産業の実態と世界全体における位置付け
- ⑤ アニメーションおよび映像メディアコンテンツの制作に係る周辺領域(著作権、プロデューサー等)
- ⑥ アニメーション分野における各国の優れた技法、技術、表現、理論
- ⑦ 国際協働の場で多様な人材と適切なコミュニケーションをとる為の語学力

このうち、大学院カリキュラムのCo-workについては、交流プログラム参加に係る事前学習を行なった上で、日中韓の学生がグループとなって、共同企画、Web会議、共同制作、成果発表会におけるプレゼン・上映まで行い、上記①～⑦までの全ての知識・技能の修得が行えるようにする。また、単に技術だけでなく、幅広い知識の修得のために、Co-work期間中、関連するテーマでのレクチャーなども実施する。アウトプットとしてのCo-work作品について、非常に高いクオリティの短編アニメーションであるために、AAENのWebページや国際映画祭、イベントなどに積極的に露出し、この事業のPRを図ると同時に、アーカイブとして残していく。

また学部レベルのオンラインレクチャーや、対象やテーマが多様なワークショップを通じて、世界的視野で自国やアジアの文化を見られるような能力や、ゲームや情報技術などの異分野の技能の習得なども目指す。

それらによる成果(アウトカム)として、アジア全体のアニメーション産業への人材輩出、アニメーション分野における国際的な作家/研究者の輩出、日本およびアジアのアニメーションに係る国際プレゼンスの向上を実現する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）

2021年度：アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)の構築と学生アニメーション国際共同制作(Co-work)成果発表会を兼ねたキックオフシンポジウムを実施する。2021年度については日中韓の3大学間で、7～8月にかけてオンラインによりCo-work2021を行ったため、その参加学生たちによる成果発表会を実施し、国際的な場での英語での作品プレゼンテーションの機会とする。

2022年度：大学院カリキュラムとしてのCo-work2022を実施する。参加は日中韓で合計15人を目安とし、他の連携校や協力校の中でアニメーションの実技の優秀な能力を持つ学生はゲストとして招聘する。Co-workの参加に当たっては、事前レクチャーや期間中のレクチャーなども行って学生が、英語や幅広い知識の習得ができるようにする。また学部向けオンラインレクチャーを試行的に実施し、学生の反応のサーベイを行う。年度後半には第2回AAENシンポジウムを開催する。

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

	外国語力基準	達成目標	
		中間評価まで (事業開始～ 2022年度まで)	事後評価まで (事業開始～ 2025年度まで)
	【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数		
1	英語：英検準1級、TOEFLiBT50、TOEIC600相当 (CEFRにおける「B1」を参考水準とする)	10人（延べ数）	40人（延べ数）
2			
3			

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

英語の「B1」は、「身近な話題について主要点を理解できる」「個人的関心事項について脈絡のある文を作ることができる」「経験、出来事を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる」「講義や会議、テレビ番組のおおまかな趣旨を理解できる」と概ね規定され、これは国際共同演習における他国の学生とのコミュニケーションや、海外大学における短期集中講座の受講に必要な水準である。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2025年度まで）

事業計画の全体において、英語の上記水準は、交流プログラムへの参加にあたって身につけておくべき能力要件として定める。本学の外国語教育専門機関である言語・音声トレーニングセンターによる授業科目・特別講義、スーパーグローバル大学創成支援事業において導入したeラーニング英語学習システム、グローバルサポートセンターによる特別講座等により英語教育プログラムを提供する。また、分野の特性を踏まえ、英語によるプレゼンテーションやピッチ（売り込み）をテーマとした特別講義を開講する。また、上記のジェネラルな英語能力に加え、アニメーションや映像についての専門用語や批評における英語表現など、専門性に根ざした英語も必要であり、専任の准教授による実践的な講座「国際コミュニケーション演習」により習得させる。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2022年度まで）

2021年度は、英語教育について充実を図り、交流プログラムにおいて必要となる運用能力修得や到達度のチェックに係る体制整備・制度構築を行う。

2022年度からは、大学院向けプログラムCo-workおよびワークショップなどに参加する学生について、上記の外国語力基準を満たす能力を事前に修得させことを目的として、専任の准教授による実践的な講座「国際コミュニケーション演習」を毎年実施する。

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

③-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)

アジアアニメーション教育ネットワーク (AAEN) の大学院向けカリキュラム学生アニメーション国際共同制作 (Co-work) における交流プログラムを通じて、参加学生は以下の通り語学以外の知識・技能を修得する。

- ①アニメーションの企画・制作・上映・配信に係る実践的なプロセス
 - ・事前学習およびCo-workの全体工程を通じて修得する。
- ②アニメーションの国際共同制作/国際共同研究の現状と将来展望
 - ・事前学習およびCo-workの全体工程を通じて修得する。
- ③アニメーションの国際共同制作に必要なハードウェア/ソフトウェアの操作・活用
 - ・事前学習およびCo-workの全体工程を通じて修得する。
- ④各国におけるアニメーション文化や産業の実態と世界全体における位置付け
 - ・Co-workにおける各大学教員および招聘講師による講義等により修得する。
 - ・レクチャーやワークショップにおいて、プログラム参加により修得する。
- ⑤アニメーションおよび映像メディアコンテンツの制作に係る周辺領域の知識習得 (著作権、プロデュース等)
 - ・Co-workにおける各大学教員および招聘講師による講義等により修得する。
 - ・レクチャーやワークショップにおいて、プログラム参加により修得する。
- ⑥アニメーション分野における各国の優れた技法、技術、表現、理論
 - ・Co-workの全体工程を通じて修得する。
 - ・レクチャーやワークショップにおいて、プログラム参加により修得する。

◎それぞれの知識・技能に係る修得状況は、レポート、制作、プレゼンテーション、Co-workにおけるチーム作業の様子、上映会での成果発表等により、各国教員が共同で確認する。

◎また、大学院レベルのCo-work作品のクオリティチェックについては、専門分野の表現者、研究者、評論家などからなる「Co-work講評会」を実施し、高品質の映像制作を目指していく。

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)

2021年度：アジアアニメーション教育ネットワーク (AAEN) の構築と学生アニメーション国際共同制作 (Co-work) 成果発表会を兼ねたキックオフシンポジウムを実施する。2021年度については日中韓の3大学間で、7～8月にかけてオンラインによりCo-work2021を行ったため、その参加学生たちによる成果発表会を実施し、国際的な場での英語での作品プレゼンテーションの機会とする。

2022年度：大学院カリキュラムとしてのCo-work2022を実施する。参加は日中韓で合計15人を目安とし、他の連携校や協力校の中でアニメーションの実技の優秀な能力を持つ学生はゲストとして招聘する。Co-workの参加に当たっては、事前レクチャーや期間中のレクチャーなども行って学生が、英語や幅広い知識の習得ができるようにする。また学部向けオンラインレクチャーを試行的に実施し、学生の反応のサーベイを行う。年度後半には第2回AAENシンポジウムを開催する。

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)

本事業では、「日中韓の質の保証を伴った大学間交流に関するガイドライン」に基づき、日中韓を中心とした連携大学の合同会議「AAENカリキュラムディベロップメント会議」により教育プログラムを相互チェックする。また、産業界や、作家、専門的知識を持つ研究者や評論家と等からも随時レビューを受け、加えて、本学の「グローバル戦略推進委員会」による自己評価、「グローバル戦略評価・検証委員会」による外部評価により、事業の内容および質を定期的に検証する。一方で KARTSと本学が2022年度から実施予定の修士課程ダブルディグリープログラムにより、より高い質の保証を伴った取り組みを推進していく。

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)

2021年度は三大学の教員および必要に応じて連携大学を交えた「AAENカリキュラムディベロップメント会議」を複数回実施する。2022年度から、カリキュラムの質保証と改善、開発のために次の4つの段階からなる「AAEN 4ステップシステム」(前述)を開始する。具体的には、参加学生や対象校教員に対する「サーベイ」、連携校教員による「AAENカリキュラムディベロップメント会議」、各大学の単位化等による「質保証」には、そして客観的な「外部評価」を通じて、事前学習を含めた全プログラム全体の質を毎年度向上させる。

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1 ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1

(単位：人)

(i) 日本人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	39
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	9

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生		2	3	3	3	11
自国にて国際教育・交流プログラム をオンラインで受講する学生	1	1	2	2	2	8
実渡航とオンライン受講を行う学生		5	5	5	5	20
合計人数	1	8	10	10	10	39

(a) 実渡航による交流

- ・ K'ARTSおよびCCUCとの交換留学派遣(2名)
- ・ K'ARTSとのダブルディグリープログラム(渡航は2023年度-) (1名)

(b) オンライン交流

- ・ 各種オンラインワークショップ参加 (1~2名)

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

- ・ 大学院向けプログラム「Co-work」参加 (5名)

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1 (単位：人)

(i) 外国人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	74
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	17

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生		2	3	3	3	11
自国にて国際教育・交流プログラム をオンラインで受講する学生	2	3	6	6	6	23
実渡航とオンライン受講を行う学生		10	10	10	10	40
合計人数	2	15	19	19	19	74

(a) 実渡航による交流

- ・ K'ARTSおよびCCUCとの交換留学受け入れ(2名)
- ・ K'ARTSとのダブルディグリープログラム(渡航は2023年度-) (1名)

(b) オンラインによる交流

- ・ 東京藝大レクチャーへの参加 (2023年より3名)
- ・ 各種オンラインワークショップ参加 (3名)

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

- ・ 大学院向けプログラム「Co-work」参加 (中国5名、韓国5名)

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑦ 交流学生数について（2021年度は事業開始以後の人数）

（単位：人）

（イ）本事業で計画している交流学生数

中国側大学	韓国側大学	ASEAN側大学
中国伝媒大学	韓国芸術総合学校	シラバコーン大学

（イ）-1：プログラム全体の派遣・受入交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 （交流期間、単位取得の有無等 の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	1	2	8	15	10	19	10	19	10	19	39	74
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）			2	2	3	3	3	3	3	3	11	11
自国にて国際教育・交流プログラム をオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6	8	23
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）			5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

（イ）-2：日中韓の三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
三カ国共通の財政支援対象 となる交流学生数	1	2	8	15	10	19	10	19	10	19	39	74	
交流相手国 中国	実渡航			1	1	1	1	1	1	1	4	4	
	オン ライ ン										0	0	
	ハイ ブリ ッド				5		5		5		0	20	
交流相手国 韓国	実渡航			1	1	2	2	2	2	2	7	7	
	オン ライ ン										0	0	
	ハイ ブリ ッド				5		5		5		0	20	
交流相手国 ASEAN	実渡航										0	0	
	オン ライ ン										0	0	
	ハイ ブリ ッド										0	0	
交流相手国 中国 及び 韓国	実渡航										0	0	
	オン ライ ン										0	0	
	ハイ ブリ ッド			5		5		5		5	20	0	
交流相手国 中国 及び ASEAN	実渡航										0	0	
	オン ライ ン										0	0	
	ハイ ブリ ッド										0	0	
交流相手国 韓国 及び ASEAN	実渡航										0	0	
	オン ライ ン										0	0	
	ハイ ブリ ッド										0	0	
交流相手国 中国、 韓国 及び ASEAN	実渡航										0	0	
	オン ライ ン	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6	8	23
	ハイ ブリ ッド										0	0	
自己負担または大学負担等 による交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実渡航										0	0	
	オン ライ ン										0	0	
	ハイ ブリ ッド										0	0	

（大学名： 東京藝術大学）

（タイプ A①：CAプラス）

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	実渡航
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	オンライン
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	C	ハイブリッド
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流		
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		

1. 【代表申請大学】

大学名 東京藝術大学

交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
交換留学(中国伝媒大学)	派遣	③				1			1			1			1			4
交換留学+DDP(韓国芸術総合学校)	派遣	③				1			2			2			2			7
Co-work(中国および韓国)	派遣	③						5			5			5				20
ワークショップ(中国・韓国・タイ)	派遣	④		1			1			2			2			2		8
交換留学(中国伝媒大学)	受入	③				1			1			1			1			4
Co-work(中国伝媒大学)	受入	③						5			5			5			5	20
交換留学+DDP(韓国芸術総合学校)	受入	③				1			2			2			2			7
Co-work(韓国芸術総合学校)	受入	③						5			5			5			5	20
ワークショップ(中国・韓国・タイ)	受入	④		2			3			3			3			3		14
オンラインレクチャー(中国・韓国・タイ) ※履修証明含む	受入	⑥								3			3			3		9

2. 【国内連携大学等】

大学名

交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
	派遣																	0
	受入																	0
	派遣																	0
	受入																	0

(大学名: 東京藝術大学) (タイプ A①: CAプラス)

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数		1	8	10	10	10	39
【交流形態別 内訳】							
①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0	7	8	8	8	31
	実渡航		2	3	3	3	11
	オンライン						0
	ハイブリッド		5	5	5	5	20
④	上記以外の交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	2	2	2	8
	実渡航						0
	オンライン	1	1	2	2	2	8
	ハイブリッド						0

(大学名： 東京藝術大学)

(タイプ A①：CAプラス)

【外国人学生の受入】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	2	15	19	19	19	74
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	0	12	13	13	13	51
実渡航		2	3	3	3	11
オンライン						0
ハイブリッド		10	10	10	10	40
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	2	3	6	6	6	23
実渡航						0
オンライン	2	3	6	6	6	23
ハイブリッド						0

(大学名： 東京藝術大学)

(タイプ A①：CAプラス)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣 (日本⇒中国、韓国、ASEAN)【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学生数	(内訳)		
									実渡航	オンライン	ハイブリッド
令3	10月	~	東京藝大	CUC	中国	アニメ祭ANIWOWワークショップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	1		1	
令4	5月	~ 8月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令4	4月	~ 3月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	交換留学	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2	2		
令4	10月		東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	ワークショップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	1		1	
令5	5月	~ 8月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令5	4月	~ 3月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	交換留学 (DDP含む)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
令5	10月		東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	ワークショップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	2		2	
令6	5月	~ 8月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令6	4月	~ 3月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	交換留学 (DDP含む)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
令6	10月		東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	ワークショップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	2		2	
令7	5月	~ 8月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令7	4月	~ 3月	東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	交換留学 (DDP含む)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2	3		
令7	10月		東京藝大	CUC,K'ARTS	中国/韓国	ワークショップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	3		2	

②外国人学生の受入 (中国、韓国、ASEAN⇒日本)【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学生数	(内訳)		
									実渡航	オンライン	ハイブリッド
令3	10月	~	CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	アニメ祭ANIWOWワークショップ (オンライン参加者も含む)	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	2		2	
令4	5月	~ 8月	CUC	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令4	5月	~ 8月	K'ARTS	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令4	4月	~ 3月	CUC,K'ARTS	日本	東京藝大	交換留学	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2	2		
令4	10月		CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	ワークショップ (オンライン参加者も含む)	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	3		3	
令5	5月	~ 8月	CUC	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令5	5月	~ 8月	K'ARTS	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令5	4月	~ 3月	CUC,K'ARTS	日本	東京藝大	交換留学 (DDP含む)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
令5	10月		CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	ワークショップ (オンライン参加者も含む)	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	3		3	
令5	4月	~ 3月	CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	レクチャー (オンライン参加者も含む)	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	3		3	
令6	5月	~ 8月	CUC	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令6	5月	~ 8月	K'ARTS	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令6	4月	~ 3月	CUC,K'ARTS	日本	東京藝大	交換留学 (DDP含む)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
令6	10月		CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	ワークショップ (オンライン参加者も含む)	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	3		3	
令6	4月	~ 3月	CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	レクチャー (オンライン参加者も含む)	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	3		3	
令7	5月	~ 8月	CUC	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令7	5月	~ 8月	K'ARTS	日本	東京藝大	学生アニメーション共同制作 (Co-work)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
令7	4月	~ 3月	CUC,K'ARTS	日本	東京藝大	交換留学 (DDP含む)	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
令7	10月		CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	ワークショップ (オンライン参加者も含む)	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	3		3	
令7	4月	~ 3月	CUC,K'ARTS シラバコーン	日本	東京藝大	レクチャー (オンライン参加者も含む)	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	3		3	

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

(v) 宿舎の提供について

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供予定の学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
			5	5	5	5	5	5	5	5	20	20

(vi) 同窓会ネットワークへの参加者数について ※タイプA①・A②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	2	5	5	5	5	22

【参加者を増加させるための取組】

Co-workのホームページにて、成果等の発表を行う他、各大学でCo-workの同窓生のメーリングリストを作り、co-workの最終上映会の情報などを積極的に発信していく。
同窓生の中からCo-workのサポーターを募集し、作品制作の助言やサポートを行なってもらう。
同窓生の中からキャンパスアジア・プラス業務を行う助手を雇用し、彼らを中心に同窓生間に情報発信を行う。

(vii) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

※第2モードまでの実績と比較して発展的な内容にするために必要な任意指標を適宜設定してください

【現状分析及び目標設定】

アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)は日中韓が中心となって、アニメーションの教育・研究のインフラをASEAN地域を含むアジア地域に構築する試みである。ASEAN諸国には、アニメーションの専門課程を持つ大学が非常に少ないために、AAENでは「協力校」としてネットワークを構築し、情報や知見の共有を図る予定である。ネットワークを広げるための目標を設定する。

(設定指標)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
(指標1) AAEN「協力校」数の拡大	1	1	1	1	1	5
(指標2)						0
(指標3)						0
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

これまで本学が行ってきたASEAN地域大学への参加を呼びかけ、オンラインレクチャーへの参加などを足掛かりに、裾野を広げていくようにする。
また中国・韓国大学がつながりを持っている大学もあり、それらの大学にも参加を呼び掛ける。加えて、日本国内の芸術大学にも門戸を広げ、成果普及を含め、参加校を増やしていく。

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
					1	1	1	1	1	1	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 東京藝術大学 】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
中国伝媒大学	認定者数						0
	認定単位数						0
韓国芸術総合学校	認定者数			1	1	1	3
	認定単位数			10	10	10	30
シラパコーン大学	認定者数						0
	認定単位数						0
年度別認定者数合計		0	0	1	1	1	3
年度別認定単位数合計		0	0	10	10	10	30

2. 国内連携大学 【大学名： 】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0	0

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①：CAプラス)

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

留学中の日本人学生に対する相談体制、履修面・学修面・生活面等のサポート体制・情報提供等

本学では、グローバル戦略の一環として2014年11月に大学事務局に「国際企画課」を新設、同年12月には「グローバルサポートセンター」を創設し、海外留学を希望する日本人学生を対象に、海外留学に際して必要となる基本情報（単位認定等教学面に係る留学前・留学中・留学後の諸手続や留意点、ビザ等入出国関係、保険・健康管理、留学先の生活関連情報等）について幅広い情報提供を行うとともに、個別相談にも随時応じ、留学中の学生に対して E-mail・skype 等による支援をしている。また、特に昨今の国際情勢への対応として、安全・危機管理に係るマニュアルの作成に加え、派遣先国の連携大学・在外公館等も含め、緊急時を想定した連絡ルート確保に係る仕組みを整備した。加えて、経済的サポートとして、本学「藝大基金」を活用した海外派遣・海外留学に係る給付型奨学金により、意欲のある学生の海外活動を促進している。

産業界との連携

本学・映像研究科では、映画やアニメーション等の専攻分野の特性上、設置当初より産業界と密接な連携関係を有しており、在籍している教員には、現役の映画監督やアニメーション作家等も多い。それによる個人的なネットワーク等を活かし、アニメーション作家の招聘による「コンテンポラリー・アニメーション入門」をこれまで 25 回以上、公開講座として開講している。また、本学の教員は2012年より、ディレクター／プロデューサーとして産学共同ワークショップ「アニメーションポートキャンプ」の実施に参画している。この事業は、大学や専門学校等でアニメーションを学ぶ学生たちに、日本のトップレベルのアニメーター達が指導を行うものである。その他、映像研究科アニメーション専攻とメディア映像専攻が共管で開催しているゲームコースでは、スクエア・エニックス社の社員をメンターとして派遣してもらい、個別学生へ産業的視点からの指導をいただいている。このように産業界との連携による人材育成プログラムの構築を積極的に展開してきた実績を有している。

修了生の就職先も、以下に挙げる通り、映像メディアやアニメーションに関する企業が数多く名を連ねている。

アニメーション専攻修了生の主な就職先

カプコン、任天堂、スターダストピクチャーズ、博報堂 DY メディアパートナーズ、電通、読売広告社、テレビ朝日、アスミック・エース、アオイスタジオ、アルカブス、ファントム・フィルム、KADOKAWA メディア・ファクトリー、任天堂川口市映像・情報メディアセンター、東京都写真美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター、NHK、ピクチャーエレメント、ユーロスペース、カプコン、東映アニメーション、小学館 等

※アニメーション作家／監督、映画監督／脚本家／スタッフ／評論家として独立する者、教育研究機関に就職する者も多い。

【計画内容】

本事業では、外国人学生に係る支援については、スーパーグローバル大学創成支援事業等により構築済の体制・システムを活かした対応を基本としつつ、更なる強化として、専任教員1名・サポート教員1名を新たに配置する。（外国人留学生の支援強化として新たに配置する教員・スタッフと同一であり、受入・派遣を総合的に担当することで効率的に業務を行う）。国際共同演習・各種ワークショップについては各国の教員によるサポートが得られ、特に国際共同演習で先方機関によりチューター役となる学生が配置される。また、派遣学生に対しては、受入機関より個人制作のスペースおよび適切な機材が無償で貸与される。あわせて、コロナ禍に対する対策・サポートも各機関が連携して学生に行う。

また、学部生向けのオンライン講義については、原則英語で行うが、必要に応じて各国語の補助資料を作成するなど、語学による問題が履修に対するハードルにならない様に配慮する。

産業界との連携についてもより一層強化し、国際共同演習では、アニメーションの企画・制作・上映という全行程において、産業界の人材による指導・アドバイス・評価等が得られるようにする。ワークショップなどの短期集中講座が渡航先で行われる場合、各国のメディア関連企業や商業アニメプロダクションにおける現場実習／インターンシップを開設し、派遣学生が海外において実践的な経験を積める教育プログラムを構築する。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

外国人学生の在籍管理のための体制整備、各種サポート体制、履修体系等に係る情報提供等

本学では、前述の「国際企画課」において、外国人学生の在籍管理・学修支援・生活支援・各種手続き支援等を集約的に対応しており、「グローバルサポートセンター」の専門スタッフ・サポートスタッフ・日本語教員との連携や、従来制度を抜本的に改編し研究室・専門領域単位で全学的に配置した「留学生支援チューター（先輩学生による指導・助言）」のネットワーク化、総合キャリアポートフォリオシステムによる一元的情報管理等、外国人留学生の支援に係る多重体制を構築している。また、本学・映像研究科は、例年新生の2割程度が東アジアを中心とした外国人留学生であり、教職員による受入・指導体制や先輩留学生によるサポート体制は十分に整備されている。

加えて、手続き、通知、注意喚起等に係る学内資料はすべて英語化を完了しており、追加分についても即座に学内で英訳・校正作業を行う業務フローが整備済である。履修体系等に係る情報も含めた英語版 Web サイトの整備、シラバス全情報の多言語化（中国語・韓国語を含む）、語学力に優れた教務事務スタッフの配置による履修指導の円滑化等、受け入れた外国人留学生に困難・不安を感じさせない環境構築がなされている。

産業界との連携

本学・映像研究科においては、前述のとおり産業界と密接な関係を有しており、それによる個人的なネットワーク等を活かし、アメリカの南カリフォルニア大学との国際共同プログラムを実施中の映像研究科ゲームコースでは、スクウェア・エニックス社の社員をメンターとして派遣してもらい、個別学生へ産業的視点からの指導をいただいている。このように産業界との連携による人材育成プログラムの構築を積極的に展開してきた実績を有している。

連携実績のあるメディア関連企業、プロダクション

スクウェア・エニックス、任天堂、ゲームフリークス、NHK、手塚プロダクション、スタジオジブリ、プロダクション・アイジー、日本アニメーション、テレコム・アニメーションフィルム、Wowmax Media, LLC、ボンズ、東映アニメーション、ピクチャーエレメント、トランスフォーマー、ACWDEEP、日本照明、IMAGICA、Pinewood Iskandar Malaysia Studios、NEC ディスプレイソリューションズ、松竹ブロードキャスティング、アミューズ、衛星劇場 等

【計画内容】

本事業では、外国人学生に係る支援については、スーパーグローバル大学創成支援事業等により構築済の体制・システムを活かした対応を基本としつつ、更なる強化として、専任教員1名・サポート教員1名を新たに配置する。（外国人留学生の支援強化として新たに配置する教員・スタッフと同一であり、受入・派遣を総合的に担当することで効率的に業務を行う）。国際共同演習・各種ワークショップについては各国の教員によるサポートが得られ、特に国際共同演習で先方機関によりチューター役となる学生が配置される。また、派遣学生に対しては、受入機関より個人制作のスペースおよび適切な機材が無償で貸与される。あわせて、コロナ禍に対する対策・サポートも各機関が連携して学生に行う。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

本学と、本申請に係る連携大学である韓国芸術総合学校（K' ARTS）とは、2005年に大学間の国際交流協定を締結済みであり、現在、ダブルディグリー協定締結の準備が進められている。中国伝媒大学（CUC）とも2016年世界展開力強化事業採択時に大学間のMOUを締結した（更新協議中）。また、タイのシラパコーン大学とは、2013年に大学間の国際交流協定を締結済みであり、本学美術研究科は、2020年12月に博士後期課程のダブルディグリープログラム協定も締結した。韓国芸術総合学校と中国伝媒大学とは既に「大学の世界展開力強化事業 - キャンパス・アジア（CA）事業の推進 -」において2016年から2020年の5年間にわたりCo-Work事業をともに実施してきている為、大学間における十分な連絡・情報共有体制が整備されている。加えて、大学間交流の発展に向け、国際企画課およびグローバルサポートセンターを中心に、全学的にOB・OGネットワークの整備を進めていることも含め、持続的な交流関係の構築が図られている。

【計画内容】

本事業においては、従前の連携体制に加え、新たに配置する専任教員1名とサポートスタッフ1名が、連携大学との連絡調整・情報共有、国際共同演習および短期集中講座に係る包括的なマネジメントや派遣学生／受入学生のサポートを行う。それにより、国際共同カリキュラムの運営を安定的に実施することが可能となる。また、OB・OGネットワークを拡大・活用し、卒業・修了後のサポート体制を整備する。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～②合わせて2ページ以内】

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

実施大学のみには留まらない大学間交流の充実・発展に資する取組

本学・映画専攻は、15大学が加盟する全国映画教育協議会の幹事学校として活動をしており、例えば2014年と2015年に主催した「デジタルシネマ撮影ワークショップ」では、加盟校から講師と参加者を募り、他大学も含めて多くの学生に学修機会を提供した。本事業において開催する特別講義等においても、本協議会を通じて、広く参加者を募ることが可能である。

また、本学は、多摩美術大学をはじめ、日本国内でアニメーション教育を行っている28大学の連合体である ICAF(インターカレッジアニメーションフェスティバル)にも幹事校として参画している。

加えて、本学は「国公立5芸術大学連携ネットワーク」を形成し、毎年度、学長級による定期的な懇談会・連絡協議会開催、各大学が実施するイベントおよび教育プログラムへの相互参加、それらを通じた教育研究に係る知見・ノウハウ・情報の共有・教職員の交流によるFD・SD等が行われている。

さらに、2016年7月に本学の主導により「芸術系大学コンソーシアム」を創設した。2020年8月現在、全国58大学が参加しており、他分野でも類を見ない大規模・広範な大学間ネットワークとして国や地方自治体等と協働した多様な芸術文化活動を推進するとともに、全国規模での共同教育プログラムの開発・実施や共同研究の推進、さらには、大学施設や学術文化資源等の共同利用など、大学単体での制約・限界を越えることで、教育研究や芸術活動の質的向上を目指している。

こうした国内ネットワークと、本事業における交流プログラムとを連動させることで、国際共同授業やシンポジウム、展覧会等への参加校・参加学生の増加や、それによる成果の発信・共有が可能となる。

大学の国際化戦略における本事業の位置付け、本事業の相手大学も含めた組織的・継続的な連携体制

本学は、2016年6月に中長期的なビジョンとして「学長宣言2016」及び「大学改革・機能強化推進戦略2016」を策定・公表しており、具体的なアクションプランとして、以下を掲げている。

- ◆海外一線級アーティスト等のユニット誘致による国際共同プロジェクトを推進
- ◆国境を超えた相互交流や芸術文化外交を促進し、世界的な芸術教育研究拠点として国際プレゼンスを確立
- ◆教育研究や芸術活動に係る成果物の社会還元等を通じて戦略的なプロモーション活動を実行
- ◆産業界等との連携基盤を活かしたキャリア支援プログラムの充実

更に、2017年10月10日の創立130周年記念式典で発表された「NEXT 10 Vision」では、今後10年間の重点推進項目の一つとして国際化を掲げ、本学における研究・教育の実績を広く世界に発信する決意を示した。

本事業は、この中長期ビジョンに基づくものであり、「第3期中期目標・計画」においても、本事業に係る交流プログラムの意義・方向性等の位置付けは明確である。

【計画内容】

「東京藝大アジア・アート・イニシアティブ」の設置

2015年以降取り組んできた大学の世界展開力事業「キャンパスアジア」および「ASEAN」事業を持続可能なものとし、本学のこれまで取り組んできた「アジア地域の文化芸術」を対象とする取組の発展的な展開を目指し、今後の展開のためのリサーチとトライアルを行うプロジェクト事業「東京藝大アジア・アート・イニシアティブ」をグローバルサポートセンター内に令和3年度に設置した。ここでは、将来的に部局横断的な「アジア総合芸術研究センター」(仮)として大学内組織の設立を目指すことを前提とし、その設計とともに、「アジアの文化芸術」を対象としたリサーチやトライアルプロジェクトに取り組む。

アートを基軸とした国際社会に向けた「共生・共創プラットフォーム」の構築・展開

現在、計画中である第4期中期目標・計画に基づき、「世界最高水準の実践的な教育研究」および「芸術の力または芸術と異分野との融合による社会的課題の解決に係る教育研究」を連動的・持続的

に行う為の「共生・共創プラットフォーム」の形成を推進し、世界・社会で活躍できるアーティスト・実務家等を継続的に輩出しつつ、人材・資金・資源の好循環を構築する。具体的には Shared Campus や海外連携プロジェクトを活用し、多様な海外大学/機関等が共通テーマの下に参画/協働するプラットフォームの形成を目指す。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

国内外への情報提供・成果普及の体制

本学では、平成 22 年の学校教育法施行規則改正を踏まえた情報公表は当然として、**創立以来、芸術大学の特性に基づき、外部に対する成果の積極的発表・発信を前提とした教育研究を行ってきた実績**があり、教育研究成果やその過程・地域連携事業・国際貢献事業等について積極的に情報を公開してきた。近年は、**英語を主とした多言語による広報活動を「ブランディング戦略」として推進**しており、グローバルサポートセンターを中心として外国語による安定的な情報発信に係る業務フローの構築が完了している。

また、キャンパスアジア事業にて日中韓の 3 校が行ってきた Co-work の活動内容は下記特設サイト「**Caica Online**」にて発信されており、これまでの Co-work の参加者一覧とそこで制作した短編アニメーションを全て視聴できる環境が整っている (<http://caica.online/>)。

加えて、大学の世界展開力強化事業 (ASEAN) 事業に関する活動は下記特設サイト「**TMOP (Tokyo University of the Arts Mekong Online Platform)**」にて掲載されている。ここにはメコン流域諸国のタイ、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーの 5 カ国にある芸術大学をはじめ、音楽家やアーティスト、さまざまな文化実践者たちと交流し、実践を重ね、築いてきたネットワークを Practice, Conversation, Network, Archive の 4 つのカテゴリーに分け、活動状況を掲載している。 (<https://tmop.geidai.ac.jp/>)

「Tokyo Geidai ⇔ Asia 2021 (東京藝大インタラクティブアジア月間)」の開催

2021 年 1 月、「東京藝大インタラクティブアジア月間」と題し、アジア地域との国際交流に焦点をあてたオンラインでの国際シンポジウム・国際フォーラムや、芸術ジャンルごとのテーマによるディスカッションイベントなどを 1 ヶ月にわたり集中的に実施した。この取組みは、2016 年度より「大学の世界展開力強化事業 (アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化)」として、5 年間に亘りアジア地域との芸術文化交流を継続的に推進し、その最終年度における成果の総括と今後の発展を目指したものである。アジア各国のパートナー大学の教員・学生も参加し、これまでの取り組みの振り返りや今後についての議論をフォーラムやイベントを通じて行った。

その中の、国際シンポジウム「Co-work 融合と競争-日中韓学生アニメーション共同制作-」では、映像研究科アニメーション専攻が韓国総合芸術学校及び中国伝媒大学と取り組んできた「Co-work」の成果について、日本のアニメ産業界のプロデューサーによる国際共同制作に関する基調講演や、学生による共同制作作品の上映等をまじえながら議論した。

また、国際フォーラム「文化芸術の交流による肥沃なアジアをめざして—東京藝大 ASEAN 事業・総括と展望—」では、本学が ASEAN 地域の 5 カ国 8 大学と美術・音楽・映像・アートプロデュースの各芸術分野を横断して実施してきた国際交流実践の成果を振り返り、アジア地域の大学間交流や芸術文化交流の今後の方向性、芸術系大学の取組がもたらすアジア地域の社会への貢献の在り方について議論した。

【計画内容】

多摩美術大学グラフィックデザイン科の AAEN「協力校」としての参加

日本の大学で本学と同様にアニメーション専門の実践的な大学院課程を持つ大学は少ない。専門の大学院課程がある大学でも、本学の大学院映像研究科アニメーション専攻 (定員 1 学年 16 名) と比べ、その規模は小さく数人程度である。

多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程 (master degree course) デザイン専攻グラフィックデザイン領域では、アニメーションという専門の名称はないものの、毎年数名が修士コースに進み、クオリティの高い作品を制作し修了生を輩出している。この多摩美術大学に、アジアアニメーション教育ネットワーク (AAEN)「協力校」への参加を呼びかけ、大学院向けカリキュラムや、学部向けカリキュラムなどの学生の参加を募る。既に、同大学グラフィックデザイン科では参加の意思を表明しており、2022 年度から正式に、学生が参加する予定である。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】		
相手大学名 (国名)	中国伝媒大学 (中国)	
① 交流実績 (交流の背景)		
中国伝媒大学は 2012 年に、本学及び韓国芸術総合学校が行っていた「共同制作」に初参加し、それ以降は本学のシンポジウムや講評会に参加するなど、積極的な交流を行っている。2015 年には、本学の岡本美津子教授が中国伝媒大学で講演し、客員教授の称号を授与されている。その後、大学の世界展開力強化事業 (モード2) に採択されてから、国際共同演習との交流プログラムに加え、交換留学も 5 年間で派遣 4 名/受入 1 名の実績となった。		
時期	本学の交流者	内容
2015 年 1 月	教員	中国伝媒大学にて本学・岡本教授が講演。客員教授就任。
2016 年 7 月	学生・教員	日中韓学生アニメーションフェスティバル 2016 (場所: 横浜)
2016 年		大学の世界展開力強化事業 (モード2) に採択
2017 年 5・7 月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ (横浜) / 共同制作ステージ (北京)
2018 年 5・7 月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ (北京) / 共同制作ステージ (横浜)
2018 年 10 月	学生・教員	第 13 回中国 (北京) 国際学生アニメーション映画祭 Aniwow! 2018
2019 年 5・7 月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ (横浜) / 共同制作ステージ (ソウル)
2019 年 10 月	学生・教員	「中国・日本・韓国国際アニメーションフォーラム」およびワークショップ「人間とコンピューターの共生」の開催 (北京)
2020 年 8 月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ/共同制作ステージを完全オンラインにて実施
2021 年 1 月	学生・教員	「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021 (東京藝術大学インタラクティブアジア 2021)」にてオンラインシンポジウム『Co-work 融合と競争 - 日中韓学生アニメーション共同制作 -』を共催
② 交流に向けた準備状況		
○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化等) が十分なされているか。		
中国伝媒大学では、この 3 カ国の共同制作事業を「CUC の中でも最も重要な国際プロジェクト」と位置づけ、2015 年に横浜の東京藝術大学大学院映像研究科で行われた共同制作には、ジャ・シュウチン学部長自らが参加し、更には自費でも参加する学生を派遣するなど積極的な取り組みを見せている。		
特に中国伝媒大学は、中国の中でも映像及び放送分野に目覚ましい教育・研究実績があり、学部レベルからの 3DCG 教育の実績や、教育環境があることから、本事業において、デジタルツールを用いたアニメーション教育に大きな役割を果たすことが期待される。また、同大学は、中国国内の北京電影学院や、北京師範大学との共同授業及び、フランスのゴブラン高等専門学校、ドイツのケルン大学など、海外の大学との積極的な交流もあり、そのネットワークも将来的には本プロジェクトに生かせるものと考えている。		

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】		
相手大学名 (国名)	韓国芸術総合大学 (韓国)	
① 交流実績 (交流の背景)		
<p>本学と韓国芸術総合学校は、国際共同制作を始め、シンポジウム、合同講評会等、活発な交流がある。</p>		
時期	本学の交流者	内容
2005年 12月	—	大学間国際交流協定を締結。
2016年 7月	学生・教員	日中韓学生アニメーションフェスティバル 2016 (場所：横浜)
2016年	—	大学の世界展開力強化事業 (モード2) に採択
2017年 5・7月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ (横浜) / 共同制作ステージ (北京)
2017年 8月	学生・教員	VR Cubic Workshop (ソウル)
2018年 2月	学生・教員	ドキュメンタリー映像制作ワークショップ
2018年 3月	学生・教員	日中韓学生アニメーション上映会・交流会 (ソウル)
2018年 5・7月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ (北京) / 共同制作ステージ (横浜)
2018年 8月	学生・教員	MR ワークショップ (ソウル)
2019年 5・7月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ (横浜) / 共同制作ステージ (ソウル)
2020年 8月	学生・教員	国際共同演習 共同企画ステージ/共同制作ステージを完全オンラインにて実施
2021年 1月	学生・教員	「Tokyo Geidai × Asia 2021 (東京藝術大学インタラクティブアジア 2021)」にてオンラインシンポジウム『Co-work 融合と競争ー日中韓学生アニメーション共同制作ー』を共催
2021年 8月 (予定)		ダブルディグリー協定の締結予定
② 交流に向けた準備状況		
<p>○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化等) が十分なされているか。</p> <p>大学院映像研究科アニメーション専攻においては、韓国芸術総合学校とのアニメーション作品の共同制作を 2010 年より毎年継続して実施しており、2012 年以降は中国伝媒大学を加え、2020 年には第 11 回目を開催するなど、実績を重ねている。</p> <p>国際共同制作以外にも、相互の大学でのシンポジウムや講評会出席、ティーチングを実施するなど、活発な教育活動での交流を行っている。また、共同制作に参加した韓国の学生が本学を訪問し、韓国の学生の主催するイベントに日本から参加したりするなど、学生同士の交流も活発に行われている。</p> <p>また 2020 年 8 月に映像研究科とダブルディグリー協定を締結する予定である。</p>		

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	シラパコーン大学 (タイ)
1 交流実績 (交流の背景)	
<p>「大学の世界展開力強化事業 - ASEAN 地域における大学間交流の推進 -」のもと、本学映像研究科は、アニメーション専攻の教員・学生をタイ・シラパコーン大学に派遣し、日本から招いた産業界のプロフェッショナルの参画を得て、産学連携国際共同アニメーション制作ワークショップを開催した。また、ユニットプログラムの一環として取り組んだタイ・シラパコーン大学との国際学会「SEAMEX (Southeast Asia Music Education Exchange)」への発表参加では、アジアの芸術文化を対象とした音楽分野の学術ネットワークを築いた。</p> <p>シラパコーン大学と本学美術研究科は、博士後期課程のダブルディグリープログラム協定を締結 (2020年12月) している。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化等) が十分なされているか。</p> <p>シラパコーン大学とは 2012 年より、本学教員が、ディレクター／プロデューサーとして産学共同ワークショップ「アニメーションブートキャンプ」の実施に参画している。この事業は、大学や専門学校等でアニメーションを学ぶ学生たちに、日本のトップレベルのアニメーター達が指導を行うワークショップである。2015 年からは、ASEAN 事業の連携校であるタイのシラパコーン大学でも毎年行われており、受講生の中から多くのアニメーション産業等に進む学生や、国際アニメーションコンクール等に入賞するなど優秀な学生を排出している。このため、シラパコーン大学の学生への教授実績がすでにあり、ノウハウを積み重ねている。</p> <p>また、上記のとおり美術研究科の方でもダブルディグリーを実施しているため、単位互換システムなどの教務体系についても掌握しており、質保証に関する備えも整っている。</p>	

事業計画の実現性、事業の発展性 【①は1 ページ以内、②、③、④は合わせて3 ページ以内】

1 年度別実施計画

【2021 年度（申請時の準備状況も記載）】

4月～：本事業の実施計画に係る日中韓+ASEAN 連携大学による協議
 7～8月：日中韓+ASEAN のアニメーション国際共同制作の実施
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各大学間の協議
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各国産業界の調査／協議
 1月：シンポジウムおよび各国教員による合同カンファレンスの開催
 1月～：「国際共同演習」および「短期集中講座」の実施に向けた環境整備（設備類の調達）
 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価

【2022 年度】

4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加
 5月～6月：国際共同企画演習（ハイブリッドにて開催）
 6月～7月：日中韓+ASEAN 学生混成チームごとの Web 会議
 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（韓国芸術総合学校にて開催）
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各大学間の協議
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各国産業界の調査／協議
 1月：シンポジウムおよび各国教員による合同カンファレンスの開催
 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価

【2023 年度】

4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加
 5月～6月：国際共同企画演習（ハイブリッドにて開催）
 6月～7月：日中韓+ASEAN 学生混成チームごとの Web 会議
 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（韓国芸術総合学校にて開催）
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各大学間の協議
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各国産業界の調査／協議
 1月：シンポジウムおよび各国教員による合同カンファレンスの開催
 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価

【2024 年度】

4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加
 5月～6月：国際共同企画演習（ハイブリッドにて開催）
 6月～7月：日中韓+ASEAN 学生混成チームごとの Web 会議
 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（韓国芸術総合学校にて開催）
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各大学間の協議
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各国産業界の調査／協議
 1月：シンポジウムおよび各国教員による合同カンファレンスの開催
 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価

【2025 年度】

4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加
 5月～6月：国際共同企画演習（ハイブリッドにて開催）
 6月～7月：日中韓+ASEAN 学生混成チームごとの Web 会議
 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（韓国芸術総合学校にて開催）
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各大学間の協議
 10月～：2022 年度の「国際共同演習」および「学部生向け講座」等に係る各国産業界の調査／協議
 1月：シンポジウムおよび各国教員による合同カンファレンスの開催
 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

本事業においては、交流プログラムの核となる「国際共同演習」および「学部生向け講座」の計画・実施・管理等を総合的に担う役割として、英語による指導が可能な芸術分野の専任教員を新たに1名雇用し、プログラムの全体なマネジメントを行う。

本事業で実施する「国際共同演習」および「学部生向け講座」の実施にあたっては、事前に両大学の教員が協議を行い、演習のテーマ、教育プログラムの内容、成績評価方法、単位の扱い等について共同で計画し、プログラムの質向上を図る。また、実際の授業運営に際しても各大学の教員がオンラインも活用して一堂に会し、自大学の学生以外の指導等も行うことから、透明性・客観性が確保される。成績管理や単位の実質化についても相互チェックがなされ、教員間の交流により教育研究に係るノウハウが共有され、FDとしても機能する。

また、学内における質の向上のための取組として、本学の「グローバル戦略推進委員会」による自己評価、「グローバル戦略評価・検証委員会」による外部評価により、事業の内容および質を定期的に検証し、PDCA サイクルによって随時改善しながら事業を推進する体制を整備する。

更に、本事業で制作されたアニメーション作品は、「国際共同演習」後に本事業特設 web ページ上で公開し、広くアニメーションに関心のある一般層からのフィードバックを受け付け、常時プログラム内容に反映させる。

③ 補助期間終了後の事業展開

【「社会との共創」を促進する為、アートの力を基軸として「国際」「地域」「デジタル」の3つの観点で「共生・共創プラットフォーム」を構築・展開】

第4期中期目標大綱が示す国立大学への期待・負託では

- ・地球規模の課題や、少子高齢化やそれに伴う生産年齢人口の減少、都市部への人口集中や地方・地域の疲弊等の課題に対処 するため、グローバル化やデジタル・トランスフォーメーション、それらを基礎とした産業・社会構造の変革を駆動すること
- ・ステークホルダーとしての社会からの期待に添えていくため、自律的な経営体として発展しながら、その持てる可能性を最大限活用して従来のを打ち破り、機能を拡張していくことで、我が国が挑む新たな社会に向けた挑戦を先導すること
- ・それにより、社会からの更なる信頼を獲得し、投資を呼び込む好循環を構築することで、社会変革の駆動力として成長し続ける経営体に転換し、対話を重ねながら、社会との共創により、新たな社会に向けた取組を進めていくこと

などが主に挙げられ、今後の東京藝術大学は

- 「創造性や感性、真理や美を追究し、論理では辿り着けない答えや価値を導く力」
- 「多様な価値観・文化・個性を尊重し、互いに活かしあい、感動・活気をもたらす力」
- 「国や地域の独自性・資源・魅力を見つけ、受け継ぎ、発展させ、発信する力」

などが社会的に求められる役割と考えられ、「社会との共創」を促進する為、アートの力を基軸として「国際」「地域」「デジタル」の3つの観点で「共生・共創プラットフォーム」を構築・展開をしていくことが必要と考えられる。

これらを受けて、本事業で構築する東アジア圏の芸術大学との共創プラットフォームを活用し、

- 立場・背景・専門が異なる多様なステークホルダー人々・機関 が参画し、あるべき社会 (SDGs 達成 / を共に創り上げていく為の場
- 個別具体的な事業や研究プロジェクトではなく、新しい研究事業や実践的な教育の機会を持続的に創出していく為の仕組み 環境 体制
- 生み出された価値や人材が社会に発信・実装され、それが更なる資金・資源を呼び込み、次の活動や環境の維持・高度化に繋がる循環システム

を構築していくことを目指す。

以上を踏まえ、具体的には以下の事項を、補助期間終了後の本事業の展開として計画している。

- 日中韓および ASEAN への連携大学・国内連携大学を含めた国際共同制作の拡大
- ASEAN 各国の芸術系大学への「国際共同演習」プログラムの輸出（教育派遣）
- アニメーションコース未設置大学へのコース創設支援

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

本事業は、本学の国際化・機能強化戦略の主要事項に位置付けられるものであり、前述の通り本学・映像研究科における国際教育の中核を成すプログラムである為、スーパーグローバル大学創成支援事業等により構築される体制・システム等および将来的な国際貢献・国際共同研究等の諸活動とも有機的に連動させつつ、継続的・発展的に運営していく必要がある。安定的な資金・財政基盤の確保に係る方策として、次の観点に基づき、事業費の節減およびマッチングファンドを図る。

■人件費の節減

節減項目（金額）	節減方法
サポート教員 (4,200 千円/年)	オンラインを用いた交流や学生派遣・受入に係る各種手続きを包括的に担当するが、補助期間終了後には業務を従来の体制内で再分配し吸収することで対応する。

■その他費用の節減

節減項目（金額）	節減方法
コーディネーター/通訳、 Web ページ管理および更新 等 (1,500 千円/年)	補助期間中に教員・学生間の英語によるコミュニケーションを定着させることで、コーディネーターを介さない連絡体制を確立する。また、本事業の実施に携わる教職員は実務経験を通じ、web 環境の構築・維持を既存の体制内で実施できるようにする。

■マッチングファンド

補助期間中の継続的な教育効果の検証、内容の見直しおよび成果の国内外への発信を積極的に行うことで、本事業で構築したプログラムの永続的な実施が有意義であることを相手大学に認識してもらい、補助期間終了後には公平なマッチングファンド体制を確立する。

■オンライン環境を効果的に用いた事業経費の通減

オンライン環境を用いた情報共有体制の強化を通じ、調査・協議に関する旅費の通減を実現することで、財政面においても持続可能なプログラムへと発展させる。

■事業費の推移（単位：千円）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度以降
補助金申請額	15,800	14,220	12,798	11,518	10,366	0
大学自己負担額	1,750	5,100	6,420	7,700	8,850	10,000
相手大学負担額	0	0	0	0	0	10,000
合計	17,550	19,320	19,218	19,218	19,216	20,000

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和3年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

＜2021年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	6,400	0	6,400	
	①設備備品費	5,500	0	5,500	
	・国際共同演習実施関連機材一式 (@300千円×10)	3,000		3,000	
	・短期集中講座開設関連機材一式 (@500千円×5)	2,500		2,500	
	・			0	
	②消耗品費	900	0	900	
	・国際共同演習用ソフトウェア一式 (@50千円×15)	750		750	
	・事務消耗品一式	150		150	
	・			0	
	[人件費・謝金]	4,050	1,750	5,800	
	①人件費	3,000	1,750	4,750	
	・Co-workカリキュラム専任教員(@600千円×5カ月)	3,000		3,000	
	・サポートスタッフ (@350千円×5カ月)		1,750	1,750	
	・			0	
	②謝金	1,050	0	1,050	
	・オンラインレクチャー外部講師 (@50千円×6回)	300		300	
	・語学特別講座外部講師 (@100千円×6回)	600		600	
	・オンラインシンポジウム講師 (@50千円×3人)	150		150	
	[旅費]	900	0	900	
	・調査/協議旅費 (@150千円×3名×1回×2カ国)	900		900	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	[その他]	4,450	0	4,450	
	①外注費	2,600	0	2,600	
	・Co-workカリキュラム特設Webサイト作成	1,000		1,000	
	・オンラインシンポジウム配信業務	700		700	
	・オンラインレクチャー制作・編集	900		900	
	②印刷製本費	850	0	850	
	・広報資料印刷	850		850	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	④通信運搬費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他(諸経費)	1,000	0	1,000	
	・オンラインシンポジウム通訳(4か国)	1,000		1,000	
	・			0	
	・			0	
2021年度	合計	15,800	1,750	17,550	

(大学名：東京藝術大学) (タイ：A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2022年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	1,220	0	1,220	
	①設備備品費	720	0	720	
	・国際共同演習実施関連機材一式	300		300	
	・短期集中講座開設関連機材一式	420		420	
	・			0	
	②消耗品費	500	0	500	
	・国際共同演習用消耗品一式	300		300	
	・事務消耗品一式	200		200	
	・			0	
	[人件費・謝金]	7,800	4,200	12,000	
	①人件費	7,200	4,200	11,400	
	・Co-workカリキュラム専任教員(@600千円×12カ月)	7,200		7,200	
	・サポートスタッフ(@350千円×12カ月)		4,200	4,200	
	・			0	
	②謝金	600	0	600	
	・オンラインレクチャー外部講師(@50千円×3回)	150		150	
	・語学特別講座外部講師(@100千円×3回)	300		300	
	・オンラインシンポジウム講師(@50千円×3人)	150		150	
	[旅費]	0	900	900	
	・調査/協議旅費(@150千円×3名×1回×2ヵ国)		900	900	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	[その他]	5,200	0	5,200	
	①外注費	1,700	0	1,700	
	・Co-workカリキュラム特設Webサイト編集	500		500	
	・オンラインシンポジウム配信業務	700		700	
	・オンラインレクチャー制作・編集	500		500	
	②印刷製本費	500	0	500	
	・広報資料印刷	500		500	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	④通信運搬費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他(諸経費)	3,000	0	3,000	
	・派遣/受入学生航空券,宿泊料【学生支援経費】	3,000		3,000	
	・			0	
	・			0	
2022年度	合計	14,220	5,100	19,320	

(大学名：東京藝術大学) (タイ：A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2023年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	498	620	1,118	
	①設備備品費	298	420	718	
	・国際共同演習実施関連機材一式	298		298	
	・短期集中講座開設関連機材一式		420	420	
	・			0	
	②消耗品費	200	200	400	
	・国際共同演習用消耗品一式	200		200	
	・事務消耗品一式		200	200	
	・			0	
	[人件費・謝金]	7,800	4,200	12,000	
	①人件費	7,200	4,200	11,400	
	・Co-workカリキュラム専任教員(@600千円×12カ月)	7,200		7,200	
	・サポートスタッフ(@350千円×12カ月)		4,200	4,200	
	・			0	
	②謝金	600	0	600	
	・オンラインレクチャー外部講師(@50千円×3回)	150		150	
	・語学特別講座外部講師(@100千円×3回)	300		300	
	・オンラインシンポジウム講師(@50千円×3人)	150		150	
	[旅費]	0	900	900	
	・調査/協議旅費(@150千円×3名×1回×2カ国)		900	900	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	[その他]	4,500	700	5,200	
	①外注費	1,000	700	1,700	
	・Co-workカリキュラム特設Webサイト編集	500		500	
	・オンラインシンポジウム配信業務		700	700	
	・オンラインレクチャー制作・編集	500		500	
	②印刷製本費	500	0	500	
	・広報資料印刷	500		500	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	④通信運搬費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他(諸経費)	3,000	0	3,000	
	・派遣/受入学生航空券,宿泊料【学生支援経費】	3,000		3,000	
	・			0	
	・			0	
2023年度	合計	12,798	6,420	19,218	

(大学名：東京藝術大学) (タイ：A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2024年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	318	800	1,118	
	①設備備品費	318	400	718	
	・国際共同演習実施関連機材一式	318		318	
	・短期集中講座開設関連機材一式		400	400	
	・			0	
	②消耗品費	0	400	400	
	・国際共同演習用消耗品一式		200	200	
	・事務消耗品一式		200	200	
	・			0	
	[人件費・謝金]	7,200	4,800	12,000	
	①人件費	7,200	4,200	11,400	
	・Co-workカリキュラム専任教員(@600千円×12カ月)	7,200		7,200	
	・サポートスタッフ(@350千円×12カ月)		4,200	4,200	
	・			0	
	②謝金	0	600	600	
	・オンラインレクチャー外部講師(@50千円×3回)		150	150	
	・語学特別講座外部講師(@100千円×3回)		300	300	
	・オンラインシンポジウム講師(@50千円×3人)		150	150	
	[旅費]	0	900	900	
	・調査/協議旅費(@150千円×3名×1回×2カ国)		900	900	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	[その他]	4,000	1,200	5,200	
	①外注費	500	1,200	1,700	
	・Co-workカリキュラム特設Webサイト編集		500	500	
	・オンラインシンポジウム配信業務		700	700	
	・オンラインレクチャー制作・編集	500		500	
	②印刷製本費	500	0	500	
	・広報資料印刷	500		500	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	④通信運搬費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他(諸経費)	3,000	0	3,000	
	・派遣/受入学生航空券,宿泊料【学生支援経費】	3,000		3,000	
	・			0	
	・			0	
2024年度	合計	11,518	7,700	19,218	

(大学名：東京藝術大学) (タイ：A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2025年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	166	950	1,116	
	①設備備品費	166	550	716	
	・国際共同演習実施関連機材一式	166	150	316	
	・短期集中講座開設関連機材一式		400	400	
	・			0	
	②消耗品費	0	400	400	
	・国際共同演習用消耗品一式		200	200	
	・事務消耗品一式		200	200	
	・			0	
	[人件費・謝金]	7,200	4,800	12,000	
	①人件費	7,200	4,200	11,400	
	・Co-workカリキュラム専任教員(@600千円×12カ月)	7,200		7,200	
	・サポートスタッフ(@350千円×12カ月)		4,200	4,200	
	・			0	
	②謝金	0	600	600	
	・オンラインレクチャー外部講師(@50千円×3回)		150	150	
	・語学特別講座外部講師(@100千円×3回)		300	300	
	・オンラインシンポジウム講師(@50千円×3人)		150	150	
	[旅費]	0	900	900	
	・調査/協議旅費(@150千円×3名×1回×2ヵ国)		900	900	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	[その他]	3,000	2,200	5,200	
	①外注費	0	1,700	1,700	
	・Co-workカリキュラム特設Webサイト編集		500	500	
	・オンラインシンポジウム配信業務		700	700	
	・オンラインレクチャー制作・編集		500	500	
	②印刷製本費	0	500	500	
	・広報資料印刷		500	500	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	④通信運搬費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他(諸経費)	3,000	0	3,000	
	・派遣/受入学生航空券,宿泊料【学生支援経費】	3,000		3,000	
	・			0	
	・			0	
2025年度	合計	10,366	8,850	19,216	

(大学名：東京藝術大学) (タイ：A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) 中国伝媒大学		国名	中国		
	(英) Communication University of China					
設置形態	国立	設置年	1954年			
設置者(学長等)						
学部等の構成	電視(テレビ)・新聞学院、外語学院、広告学院、経済・管理学院、政治・法律学院、戯劇影視(演劇映画)学院、音楽・録音芸術学院、動画・数字(デジタル)芸術学院、播音主持(アナウンサー)芸術学院、文学院、情報(情報)工程学院、理学院、計算機学院、対外漢語(中国語)教育学院、MBA学院、思想政治理論課教研部、高等職業技術学院、国際学院、芸術研究院、体育部、培訓(養成訓練)学院、鳳凰(フェニックス)学院					
学生数	総数	14,000人	学部生数	9,000人	大学院生数	4,000人
受け入れている留学生数	79人	日本からの留学生数	0人			
海外への派遣学生数	601人	日本への派遣学生数	1人			
Webサイト(URL)	http://www.cuc.edu.cn/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

- 中国政府が作成している全国普通大学本科リスト(全国普通高等学校名単)リストに登録番号4111010033として登録されている。
(参考) http://www.moe.gov.cn/jyb_xxgk/s5743/s5744/202007/t20200709_470937.html

全国普通高等学校名単
(截至2020年6月30日)

序号	学校名称	学校标识码	主管部门	所在地	办学层次	备注
北京市(92所)						
1	北京大学	4111010001	教育部	北京市	本科	
2	中国人民大学	4111010002	教育部	北京市	本科	
3	清华大学	4111010003	教育部	北京市	本科	
	...					
30	中国伝媒大学(中国伝媒大学)	4111010033	教育部	北京市	本科	
31	中央财经大学	4111010034	教育部	北京市	本科	
32	对外经济贸易大学	4111010036	教育部	北京市	本科	

- 中国政府が定める「双一流」プロジェクトの一流学科構築大学(95校)に登録されている。
(参考) https://spc.jst.go.jp/education/shuangtop/shuang_list_dep.html
国立研究開発法人/科学技術振興機構SciencePortalChina より

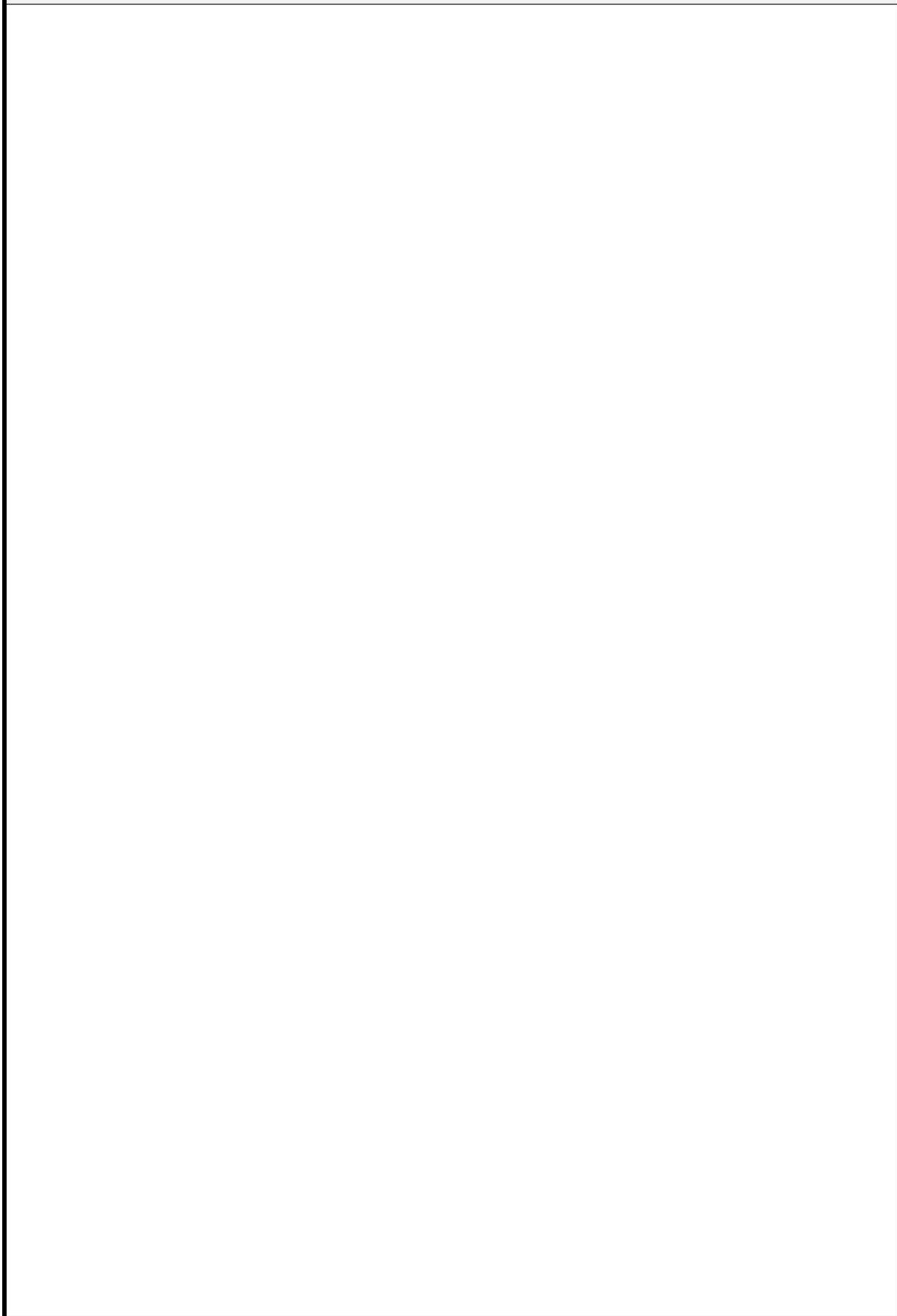
一流学科構築大学(95大学)

一流大学構築大学には95の大学が選定されている。

	大学名	学科名
11	中国伝媒大学	ジャーナリズム・コミュニケーション学、戯劇・映画・テレビ学

(大学名: 東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。



(大学名：東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) 韓国芸術総合学校		国名	韓国		
	(英) Korea National University of Arts					
設置形態	国立	設置年	1993年			
設置者(学長等)	Kim Bongryol					
学部等の構成	音楽院、演劇院、映像院、舞踊院、美術院、伝統芸術院、協同課程					
学生数	総数	4,666人	学部生数	3,108人	大学院生数	1,653人
受け入れている留学生数	158人	日本からの留学生数	6人			
海外への派遣学生数	287人	日本への派遣学生数	19人			
Webサイト(URL)	http://www.karts.ac.kr/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

韓国教育省が公開している大学データベースに登録されている(下記は機械翻訳)
<https://www.academyinfo.go.kr/popup/pubinfo1690/list.do?schId=0000383>

情報開示

韩国芸術総合学校本校 | 学校のホームページ | 地図を表示

住所: ソウル特別市城北區 芳蘭路32(道)146-37 (ソクダグアンドン、韓国総合芸術学校) (右: 02789)
 代表電話: 02-746-9066 | 代表ファックス: 02-746-9069
 タイプ: 各種学校(大学) | 設立: 特別法制定 | 学校設立: 1992.10.30

より正確な情報表示のためには、いくつかの大学のデータ値が変更されることがありますので、予めご了承ください。

韓国芸術総合学校

私たちの大学の競争力

情報開示

学科情報

大学の競争力の開示

学生

教員の研究

財政

教育環境

画像のダウンロード

<p>在学生チュンウォンコル (在籍内学生数 / (学生定員 - 学生募集停止人員) × 100%)</p> <p>全学生数 2,763人 学生定員 2,252人 学生募集停止人員 0人 チュンウォンコル (在籍内) 116.8%</p> <p>資料基準日: 2020.4.1.</p>	<p>就職率 (就職者数 / (卒業者数 - を除く割合) × 100%)</p> <p>卒業することができ 469人 就職者数 290人 を除く割合 65人 就職率 56.9%</p> <p>資料基準日: 2019.12.31</p>	<p>新入生チュンウォンコル (定員内入学者数 / 募集人員 × 100%)</p> <p>全入学者数 549人 定員内入学者数 534人 募集人員 597人 チュンウォンコル (在籍内) 95.7%</p> <p>資料基準日: 2020年9月期新入生</p>
<p>学生1人当たりの教育費 (総教育費 / 学生数)</p> <p>総教育費 71,768,324,582ウォン 学生数 2,711人 学生1人当たりの教育費 26,473,008.0ウォン</p> <p>資料基準日: 2019年度末、学生: 2019.4.1 学部・大学院</p>	<p>専任教員の確保率 (専任教員数 / 教員法定定員 × 100%)</p> <p>専任教員数 (在学生の基準) 133人 学生数 2,763人 教員法定定員 (在学生の基準) 139人 専任教員確保率 (在学生の基準) 95.68%</p> <p>資料基準日: 2020.4.1 学部・大学院</p>	<p>学生1人当たりの奨学金 (奨学金総額 / 学生数)</p> <p>学生数 2,640人 奨学金総額 5,244,307,190ウォン 校内・社外やその他の 1,803,359,750ウォン 学生1人当たりの奨学金 1,986,480.0ウォン</p> <p>資料基準日: 2019年度末、学生: 2019.4.1、301合計/2</p>

(大学名: 東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) シラパコーン大学		国名	タイ		
	(英) Silpakorn University					
設置形態	国立	設置年	1943年			
設置者 (学長等)	Asst. Prof. Wanchai Sutananta, Ph.D.					
学部等の構成	絵画・彫刻・版画学部、建築学部、考古学部、デコラティブアート学部、文学部、教育学部、理学部、薬学部、工学・工業技術学部、音楽学部、動物科学・農業技術学部、経営学部、情報コミュニケーション学部、シラパコーン国際カレッジ					
学生数	総数	24,982人	学部生数	20,802人	大学院生数	4,180人
受け入れている留学生数	32人	日本からの留学生数	5人			
海外への派遣学生数	336人	日本への派遣学生数	16人			
Webサイト (URL)	http://www.su.ac.th/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

■タイ Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation (MHESI)のBureau of International Cooperation and Strategy(BICS)ホームページ (<http://inter.mua.go.th/>) 内の高等教育機関リストに記載されている。

List of Accredited Thai Higher Education Institutions
タイ国内で認可されている高等教育機関の一覧

As of 13 May 2021

Type of university	No.	Name of university	Website
Autonomous universities (26)	1	Burapha University	www.buu.ac.th
	2	Chiang Mai University	www.cmu.ac.th
	3	Chulalongkorn University	www.chula.ac.th
	4	Kasetsart University	www.ku.ac.th
	5	Khon Kaen University	www.kku.ac.th
	6	King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	www.kmitl.ac.th
	7	King Mongkut's University of Technology North Bangkok	www.kmutnb.ac.th
	8	King Mongkut's University of Technology Thonburi	www.kmutt.ac.th
	9	Maejo University	www.mju.ac.th
	10	Mae Fah Luang University	www.mfu.ac.th
	11	Mahachulalongkornrajavidyalaya University	www.mcu.ac.th
	12	Mahamakut Buddhist University	www.mbu.ac.th
	13	Mahidol University	www.mahidol.ac.th
	14	National Institute of Development Administration	www.nida.ac.th
	15	Prince of Songkla University	www.psu.ac.th
	16	Princess Galyani Vadhana Institute of Music	www.pgvim.ac.th
		17	Silpakorn University <small>シラパコーン大学</small>

参照：https://drive.google.com/file/d/1R0w1qW0xyrYsYb3y4L1_YkYY1v.../view

■QS世界大学ランキング (2021年8月時点) に掲載されている。



QS世界大学ランキング
公式Webサイトのページ画面

参照：
<http://www.topuniversities.com/universities/silpakorn-university>

(大学名： 東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。



参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入、④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】
※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名 東京藝術大学

①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。
※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日～2020年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。
※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年5月1日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019年度 受入人数
1	中華人民共和国	186	98
2	韓国	39	17
3	台湾	15	10
4	イギリス	4	5
5	アルゼンチン	3	1
6	ブラジル	3	1
7	シンガポール	3	1
8	香港	3	2
9	ドイツ	3	6
10	アメリカ合衆国	3	0
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) ロシア・オーストラリアなど	38	34
留学生の受入人数の合計		300	175
全学生数		3441	
留学生比率		8.7%	

②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年4月1日から2020年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。
なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	2019年度 派遣人数
1	フランス	パリ国立美術学校	98
2	韓国	韓国芸術総合大学	30
3	アメリカ	南カリフォルニア大学	23
4	ドイツ	シュトゥットガルト美術大学	17
5	タイ	シラパコーン大学	15
6	イギリス	英国王立音楽院	15
7	インドネシア	インドネシア国立芸術大学	9
8	ミャンマー	ミャンマー国立文化芸術大学	9
9	シンガポール	ラサール芸術大学	7
10	オーストリア	ウィーン国立音楽大学	6
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) イタリア 計 29 カ国	(主な大学名) ミラノ工科大学 計 49 校	88
派遣先大学合計校数		59	
派遣人数の合計			317

(大学名：東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	東京藝術大学						
③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2020年5月1日現在）							
<p>※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。それぞれ記入。 （いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）</p>							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
1375		5	7	7	23	42	3%
うち専任教員 （本務者）数		5		6	1	12	

（大学名：東京藝術大学 ）（タイプ A①:CAプラス ）

大学等名	東京藝術大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
ダブルディグリー協定	
<p>■交換留学での学習モデルをもとにして、韓国芸術総合大学とはアニメーション専攻とダブルディグリー協定締結への動きにもつながっている（なお、シラパコーン大学とは美術分野にて博士後期課程のダブルディグリー協定が締結されている）。</p>	
分野横断を基盤とした3つの教育研究組織の取組	
<p>■国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻</p>	
<p>平成28年4月に設置し、美術・音楽・映像など様々な芸術ジャンルを専門とする教員・学生が、公演・展覧会、ワークショップ、セミナーなどの多様な形態で行われる文化事業をジャンル横断的に「アートマネジメント」「キュレーション」「リサーチ」の3つの角度から学んでいる。平成30年4月には博士後期課程を新たに設置し、既に設置していた同修士課程と併せ、芸術文化と社会とを繋ぐ高度専門人材の育成プログラムが強化された。世界各国を拠点に活躍し顕著な業績を有する外国人教員も招へいして、分野に偏らず最新のアートの動向を踏まえた教育を行っている。</p>	
<p>「アートマネジメント」：公演や作品などの企画・制作・運営、資金調達、利害関係者との連携調整などの役割を現場において実践し、芸術家、地方公共団体や企業、財団、メディア、NPO、市民との新たな関係構築を目指す。</p>	
<p>「キュレーション」：展覧会のテーマやコンセプトの企画立案、それに基づくアーティスト・作品・展示空間の選択、コンセプトを視覚的に伝える演出・運営、カタログ作成等の理論と実践を学習。</p>	
<p>「リサーチ」：社会科学的な視点で文献調査及びフィールドワークで芸術と社会の関係を考察する。</p>	
<p>■美術研究科グローバルアートプラクティス専攻</p>	
<p>平成28年4月に設置し、ロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校などの美術系大学とユニットを組んで世界トップクラスの講師陣を海外から招へいしつつ、グローバルな文脈で現代アートの社会実践上の重要問題を取り上げた講義・リサーチ・ワークショップ・制作・発表等から成る「グローバルアート国際共同カリキュラム」を編成し、グローバルな文脈で現代アートの社会実践を志向する研究と人材育成を行っている。本学が創設以来培ってきた木工芸・染色・和紙・彫刻・ガラス・金工等の伝統技法の学修も織り交ぜていることが特徴であり、授業は原則として英語で行い、創設以降の国際色豊かな取組は、ウェブサイトにて日英両語で発信している。（http://gap.geidai.ac.jp/GAP_JP/Archive/publication.html）</p>	
<p>■音楽研究科オペラ専攻</p>	
<p>平成28年度に創設し、グローバルに活躍するオペラ芸術家の個人指導による発音・発声・歌唱表現・演技等「海外一線級アーティストの誘致」</p>	
<p>■SGU開始前も一線級アーティストの招へいは行っていたが、SGU開始後は意識的に人材育成プログラムに組み入れ、世界最高峰の芸術系大学・機関から海外一線級アーティストを毎年度継続して招聘し、特別講義、ワークショップ、個人指導、コンサートでの学生との共演等を強力に推進している。</p>	
<p>以下は招聘元の例である。</p>	
<p>パリ国立高等美術学校/ロンドン芸術大学/シカゴ美術館附属美術大学/パリ国立高等音楽院/英国王立音楽院/ベルリンフィルハーモニー管弦楽団/ニューヨークメトロポリタン・オペラ/南カリフォルニア大学/フランス国立映画学校/ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ</p>	
<p>例えば音楽分野では、令和元年度は、英国王立音楽院、パリ国立高等音楽院、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団などから13名の卓越教員を雇用・海外一流演奏家29名を特別招聘教授として招聘し、個人指導・グループレッスンを行った。特にメトロポリタンオペラの言語コーチや欧州劇場で活躍するヴォーカルコーチの招聘ではレチタティーヴォ（独唱方法の一つ）など外国語歌唱の指導も徹底的に行い、同年10月にオペラ公演を開催する成果を上げた。</p>	

海外連携体制の整備

■教員・学生の国際流動性・双方向性の確保や、育研究の成果を国際的に発信するための場の拡充に向け、本学では主として国際ネットワーク及び連携機関とのパートナーシップを強化した。この取組の一環として令和元年からは元留学生の情報データベース構築に着手した。

■令和2年8月までに世界の28か国／地域・77大学／組織と国際交流協定を締結し、双方向の交流活動を推進した。

主な協定校は以下の通り。

ロンドン芸術大学/英国王立音楽院（イギリス）
パリ国立高等美術学校/フランス国立映画学校（FEMIS）（フランス）
リスト音楽院（ハンガリー） シカゴ美術館附属美術大学（アメリカ）
中央音楽学院（中国） 韓国芸術総合学校（韓国）
シラパコーン大学（タイ）
ベツアルエル美術デザインアカデミー（イスラエル）

■海外でのプログラム実施は協定校や在外公館等の協力を得て実施しており、平成30年1月には外務省が設置するジャパンハウス・ロサンゼルス等と共催で「音楽とアニメーションの調べる L.A. 東京藝大×USC」を開催したほか、6月には、音楽学部器楽科管打楽器専攻学生を中心に組織された東京藝大ウィンドオーケストラが、パリ日本文化会館にて公演を行った。海外でのプログラム実施の際に、積極的に在外公館等への働きかけを行い、パリ日本文化会館については今後も演奏会や展覧会を共同実施することについて合意を得ており、在韓国大使館ともソウル市内の大使館施設の使用の可能性を協議した。

国際共同カリキュラムの開発

■平成27年度以降、美術研究科にてロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校、シカゴ美術館附属美術大学と「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実施し、双方の教員・学生により構成されたユニットが日本とパリ／ロンドン／シカゴを行き来しながら、双方で単位化された数カ月間にわたる共同授業・成果発表を毎年度着実に実施している。

■我が国の重要な地域の大学と質保証を伴った連携・学生交流を戦略的に進める「大学の世界展開力強化事業」に積極的に申請し、中東（平成27年度）、中国・韓国、ASEAN諸国（いずれも平成28年度）及びアメリカ（平成30年度）の4つのプログラムに採択され、各プログラムの連携大学との相互交流・共同プロジェクトを進めている。

①中東：東洋と西洋文化が交錯融合する中東地域をターゲットにアナドル大学、ミマル・シナン大学（以上トルコ）、ベツアルエル美術大学（イスラエル）と美術分野において本学取手校地の工房群の機能なども生かした実践的なワークショップ等を行った。（令和元年度で補助事業期間終了。）

②中国・韓国：国際アニメーションコース創設に向け、中国伝媒大学、韓国総合芸術学校と日中韓の学生の混成チームが短編アニメーション作品を制作する国際共同演習等の教育プログラム。

③ASEAN諸国：ミャンマー国立文化芸術大学、バガン漆芸技術大学（以上ミャンマー）、ベトナム国家音楽院、ベトナム美術大学、ホーチミン市美術大学（以上ベトナム）、シラパコーン大学（タイ）、ラオス国立美術学校、カンボジア王立芸術大学と、音楽、美術、映像、アートプロデュースの本学のすべての領域で分野横断も行いながら学生派遣と招へいを積み重ねた文化交流を行っている。ASEAN諸国には文化芸術の担い手を教育するための方法論が確立していない場合もあり、各プロジェクトを通じて本学が創立以来培ってきた実践に基づく芸術教育の手法を各国の芸術系大学に普及する国際貢献的プログラムの意味も持ち合わせている。

④アメリカ：南カリフォルニア大学と共同で、ゲーム技術・表現を駆使して社会的課題を解決するグローバル人材を育成する。

受入にかかる教職員組織

■外国の大学で学位を取得した日本人教員、外国で教育研究歴のある日本人教員について、積極的に採用を進めた結果、外国籍の教員数は増加していないが、全体としては令和2年5月1日の時点で46%が「外国人教員等」となっている。

■ロンドン芸術大学、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、南カリフォルニア大学、フランス国立映画学校等から各分野のアーティストや研究者を教員として誘致し、多彩な教育プログラムを展開するほか、国外において卓越した業績、極めて高度の専門的学識又は技能を有する者を「卓越教員」として本学において教育研究等に従事する教員として誘致を行った。（その結果、海外大学／機関等との共同プロジェクトに係る参加者数は平成25年201人→平成28年1802人→平成30年2529人と増加。）

■招へい教員が長期滞在して本学学生の指導を行えるよう、平成29年度に「招へい外国人教員宿舎施設」を学内に整備した。

■講師以上の上位職専任教員ポストにおいて、外国籍を有する者を採用決定した部局にインセンティブ予算を配分する制度を平成30年度より開始した。

■事務職員を採用する際に国際経験や語学力を重視して選考しているほか、非正規職員の新規募集・雇用にあたって、外国の大学への留学経験、外国での職務経験、日本における外国人受け入れにかかる職務経験を重要な評価項目のひとつとした。

■非正規職員については正規職員へ登用する試験制度を実施し、外国の大学で学位を取得した語学力の高い職員を正規職員に登用した。

■大学全体の国際化を統括する国際企画課については、外国の大学で学位を取得、または外国で職務経験のある者を配置している。

■事務職員全体の国際的なセンス・視野や基礎的な語学力を高めるため、海外研修や語学研修を実施しているほか、ヨーロッパの芸術系大学との間では職員交流に係る助成金が得られる形でエラスムス+プログラムに係る協定を締結した。

■海外における連携大学との協議や共同プロジェクト、本学と国際交流協定を締結している大学・機関が主催するシンポジウムや式典等に積極的に事務職員を派遣し、国際業務の実務経験を積ませている。

■文部科学省「国際教育交流担当職員長期研修プログラム」の活用を行っている。

■日中韓事業について、これまで授業カリキュラム上は「国際共同制作演習（アニメーション）」として単位化されシラバスも作成し、「共同企画演習」および「共同制作演習」に参加し作品提出を行った履修者に対しては、選択科目2単位として単位付与を行っている。また、プログラム実施前に先立ち、語学能力向上のための事前授業を行っており、こちらも「国際コミュニケーション演習」として単位化し、選択科目2単位として単位付与を行っている。授業後には学生に対するアンケートも実施し、毎年改善に役立てている。

■毎年、Co-workの開始前、開始中、開始後に、3カ国の教員・スタッフによりCoworkカリキュラムや今後のあり方などを話し合う「Coworkカリキュラム・ディベロップメント会議（@オンライン）」を開催しており、学生へのアンケート結果などに基づくカリキュラムの改善を行っている。

■平成28年度にシラバスの英語化は大学の全科目について完了した。

シラバスはWeb上でも公開し、また、日英併記および100以上の言語に対応した自動翻訳機能を導入しており、今後の継続体制も整備されている。

■平成30年度から芸術系大学としてふさわしく、わかりやすいシラバスを提供するため、写真や動画の活用を開始した。

■平成28年度に全ての授業科目へのナンバリングを完遂し、教務システムに反映させ運用している。

大学等名	東京藝術大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果	
大学名	東京藝術大学
整理番号	B03
構想名	“藝大力”創造イニシアティブ ～オンリーワンのグローバル戦略～
◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価	
(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>グローバル化が急速に進展する今日、国際的な芸術文化交流による国境を越えた相互理解の推進や国際平和の実現などが求められている。本構想は、このような状況の下、我が国の芸術文化を世界に積極的に発信することが重要であるとの認識に基づき、単に世界第一線で活躍できるアーティスト・クリエイター等の芸術家を輩出するだけでなく、芸術文化の承継や国際発信等を担うアーキビスト・キュレーター等のマネジメント人材育成も急務であり、申請大学の「藝大力」を中核に、我が国の芸術文化リソースを総動員し、芸術文化力によって、世界の文化・社会システムや産業構造等国際社会全体を革新しようとするものである。</p> <p>上記の構想や目標に基づき、大学の特性を活かした取組を積極的に積み重ねており、数多くの国際的なプロジェクトが実施されるなど、本事業の活用により、国際的に互恵的な活動を行い、教職員や学生の意識改革につながる等、国際連携、グローバル人材育成、大学のガバナンス及びマネジメント体制の改革など、成果が挙がっており評価できる。</p> <p>芸術系大学としてオンリーワンのグローバル化の取組であり、この取組を通じてグローバルに活躍する芸術家や、その活動を支えるアート・マネジメント人材の育成が期待される。</p> <p>一方、外国語による授業科目の増加やジョイント・ディグリープログラムといった国際共同学位プログラム開設の進捗が計画に比して遅れている。また、学生、職員など全体の外国語能力の向上については、多くの課題が残っている。</p> <p>大学の世界展開力強化事業なども併せて大学の国際化を積極的に推進してはいるが、事業の自走化に向けてクラウドファンディングなど、他大学がなかなか実現できない工夫を推進していることは高く評価できる。一方で、寄付金を含めて、不確実な財源のみに依存することに対して懸念があるため、本事業の自走化をより確実にするために、更なる財源確保に努める必要がある。</p>

(大学名：東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	東京藝術大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）中間評価結果	
大学名	東京藝術大学
整理番号	AA04
事業名	日米ゲームクリエイション共同プログラム - メディア革新時代の新しいアーティスト育成 -
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価	
総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	<p>本プログラムは、欧米最高峰の芸術教育機関との国際共同カリキュラム構築を掲げた大学の中期目標・計画の推進に大きく貢献する可能性のあるプログラムであり、ゲームクリエイションの分野で世界でも最先端の大学と交流することにより、枠組みが順調に構築されている。交流学生数も当初計画に沿って推移しており、COIL型教育手法の活用に多く見られる派遣・受入の事前事後学習だけでなく、実質的な共同制作と交流活動としても用いる工夫がなされている。また、外部評価体制の整備がなされ、産学連携の一環として、ゲーム制作会社にメンターの派遣を依頼し、業界最前線の知見を吸収できるようにする体制を構築している点は高く評価できるとともに、本プログラムにおける学生の成果物が学外のコンペティションで入選し、1作品については企業から商品化の打診を受ける等、社会的な成果の普及も見込まれている。</p> <p>一方で、単位相互認定については、実施に向けた協議は続けられているものの実施には至っていないが、制度の確立によって多くの学生がプログラム参加に興味を示し、ひいては他大学における同分野への成果普及にも繋げる芸術系大学の先導役としても、不断に推進されることが望まれる。また、事業計画にある国内他大学との連携も進捗状況が明らかになっていない。専門分野での活動実績の充実と一層のノウハウの蓄積、プログラム規模を補完する方策としても国内他大学との連携推進が強く期待される所であり、全学的な国際共同カリキュラムへの発展を通じて、他大学のモデルを目指しながら成果の普及に務め、国内の他大学との連携に期待したい。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p>

(大学名：東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	東京藝術大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>◆スーパーグローバル大学創成支援事業 採択事業名：「“藝大力”創造イニシアティブ オンリーワンのグローバル戦略」 事業概要：我が国唯一の国立総合芸術大学として、アジアでは確固たる地位を築いている藝大が、世界的にも稀少な、美術、音楽及び映像3分野を有する総合芸術大学の強み・特色を活かした戦略を総力を結集して展開し、海外一線級アーティストユニット誘致等によりグローバル人材育成機能強化を図るとともに、ブランディング戦略を推進して国際プレゼンスを明確化することで世界ブランド“藝大”への飛躍を目指す。</p> <p>同事業は大学組織の国際化を推進する為の体制整備、欧米を中心とした世界有数の芸術系大学とのネットワーク基盤の構築および同基盤に基づく海外一線級アーティストユニットの誘致等を中核としたものであり、日中韓による「キャンパス・アジア」としてアニメーション人材育成の為の共同カリキュラムの構築を目指す本申請に係る交流プログラムとは明確に異なり、経費の重複は一切ない（同事業において構築している体制・システム等については、当然本申請事業でも活用されることになるが、当該体制・システムに係る経費については、本申請においては一切計上していない）。</p> <p>◆平成30年度大学の世界展開力強化事業（COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援） 採択事業名：日米ゲームクリエイション共同プログラム - メディア革新時代の新しいアーティスト育成 - 事業概要：多様な映像表現を有機的に組み合わせたゲームを「現代における総合芸術」と捉え、わが国唯一の国立総合芸術系大学として培ってきた世界最高水準の芸術表現をゲーム分野で昇華し活躍する、新時代のアーティスト育成に取り組むべく、国内外の大学・産業界との連携のもと、ゲーム教育のカリキュラム開発、新専攻設置を目指す。</p> <p>同事業における交流プログラムはアメリカの南カリフォルニア学を対象としたものであり、本申請に係る交流プログラムとは明確に異なり、経費の重複は一切ない。</p> <p>◆（独）日本学生支援機構 2021年度海外留学支援制度（協定派遣） 採択事業名 ①「美術の創作研究におけるそう報告学生交流プログラム」 ②「フランスの著名アニメーション教育機関派遣プログラム」 ③「フランスのアニメーション高等教育機関での作品上映を通じた教育カリキュラム」</p> <p>同事業における交流プログラム①は美術研究科の学生、②③についてはフランスとの交流を対象としたものであり、本申請に係る交流プログラムとは明確に異なり、経費の重複は一切ない。</p>	

(大学名：東京藝術大学) (タイプ A①:CAプラス)